



狹形之帖

天兒這子大張子あまのこ

符守并ふりもり狼括袋むらぎ之の事こと

疝うり小袖こそで之の事こと

祝いわい云い床飾とこかざり之の事こと

池子いけこ提ひ籠かご子こ之の事こと

子こ掛か并ひ齒は堅か之の事こと

大おほ呂ろ勺すく懸か子こ之の事こと

結むす方かた并ひ打う形かたち之の事こと

貝かい合あ貝かい桶か之の事こと

奇あま貝かい并ひ繪え貝かい文ぶん字じ札さ之の事こと

指さし燈あかり香か之の事こと

鴉形の帖

天兒

世にわまの川と用が事候おふ天祖のいふ一より身  
 乃災難を除く後の法のわき一より今に到りく用  
 更なり其らくこれゆりや久くわらふより麻作の  
 後茅のの糸はくくといふよりわき 愚業兼好が六  
 月後といふ是より麻乃糸茅の糸とりて六串もて  
 かも川にいらくくけりけりなり六月後といふ六月盡日  
 前に賀茂川は照月なみとあはれけりなふらくくけり  
 後には皆月といふなりは候あり  
 身の代形代といふも後なり 五葉源氏字治十帖の  
 内に優は女塞の姫衣中れ衣のいりやと女習の衣と大

蘇のこゝろと兼中絶云の終ひのよりの終りも是  
より源氏物語は身代といふてはよ右のよりの  
終りも皆合れんごまのくごにほくらなり身代  
とよとれは其人のまなるこころ小神は遷科免難  
あせつたつて其人の名ともつたけながすあま  
新ぶ若のくごなごころのまなり皆天児はきごひ  
に〜其とりりになり〜と按ゆともま前に  
しれと〜乃かごごりのおせんごご〜もよりけ付る  
まけら〜へ〜ごご〜なご〜もより後の具と  
りら〜身代ご〜昆科免難とごご〜す  
なり堀川院の時後頼朝はごご〜の〜前に  
はごごなるあごらとりのに〜して〜ひ〜身代

けつら〜もよりの前にいづ〜もたごごの〜と  
〜又後若〜と〜より延喜式に是と若由聖  
いづら〜ごご孔子の法言に備と他〜りの〜ら  
らん〜の〜ま〜細註に葛と来て終と〜も  
は又ま〜不若の字を〜や孔子の〜ま〜備と我必  
の天児の義理を〜泥のかりら〜と〜に延喜  
式は葛靈は天児の〜ま〜ト曰かよりまに  
け〜ごご〜なご〜ひあ〜も〜の形代  
よ〜の〜ら〜り若れは按ゆ形代は天児同例也  
凶変の按ゆ形代は葛靈の二と〜月ひ〜可なり  
天児と云はぬれ〜若れ〜  
天児は今れを〜ら〜 是源氏物語も天児

三歳まで力に添くりのといひたり松凡の事を赤れ腹  
の非を後よめ名女流とすえ一が三つむりの所の  
け糸の志乃事女にけりけりといひて天兒をけりて志  
きくわさどしとくともり候侍男子女子けりへは  
なり大内御川水に後より事本乃侍り人ごさの  
道ゆ勢の侍なりけりといひて志乃事とよむとく  
ぐさの事なりとぞ

一 天兒下地の侍りや三つむりの内へ入りの事けりて  
侍りあり

一 天兒と春月のまへとむらさきよりまづまづみ  
細は侍りありて織のこころより出まゝの事一折会  
ありてなかりしこと侍りては入物ハ有織家乃

おとら侍受物ももバ顯密家にかへてやまゝ一侍  
やまもりけりて道徳と女ハ格徹や女の有織に  
下比をくくくくくくは折会ありてはなる

色一

一 沖着捲 久重 髪並の比身 男子元服 袈裟

女の天兒 三つ目の腰振 丈姫の天兒一所にして

四寝の間にし 天糸男子女子日取のうり

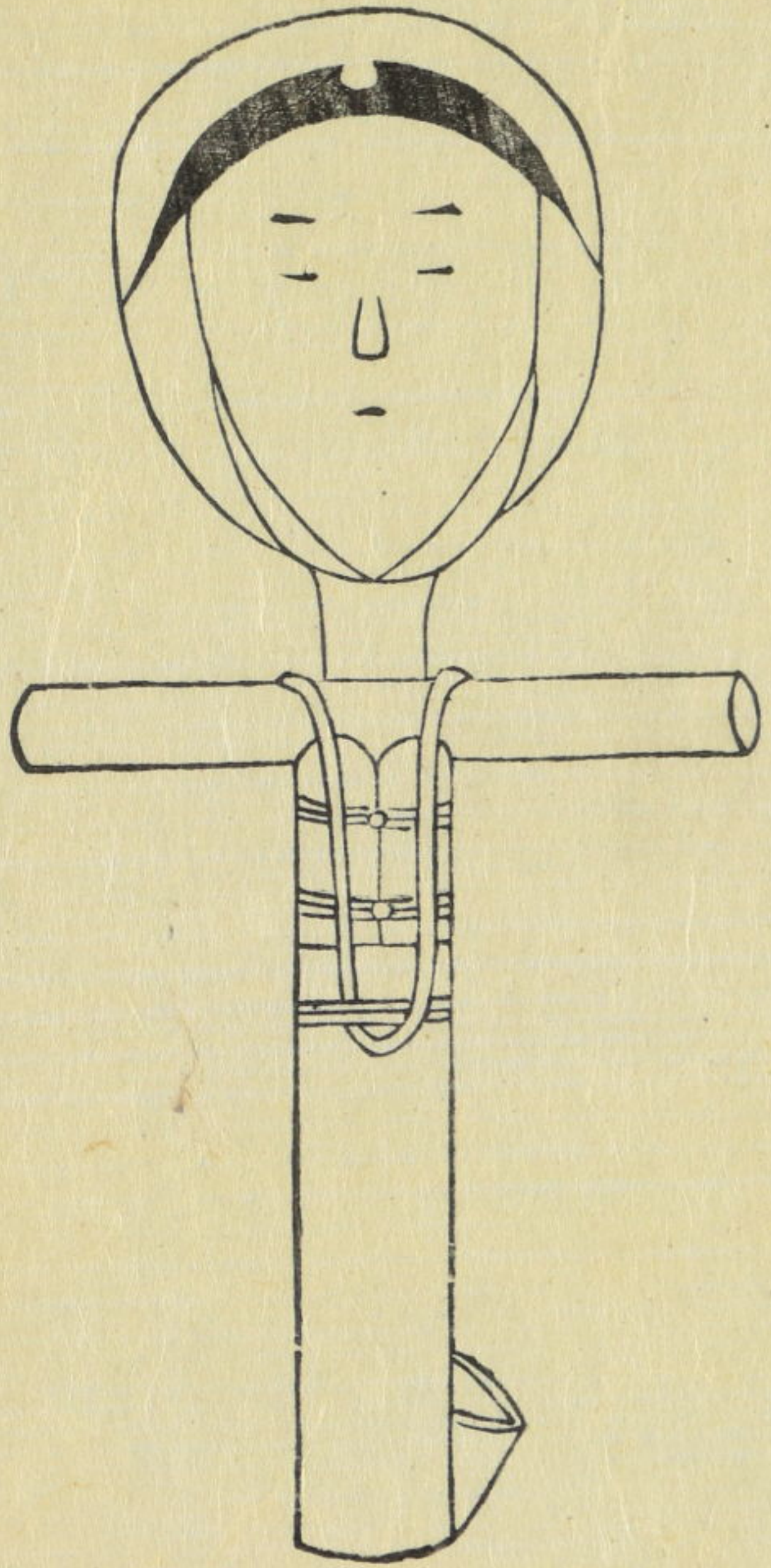
右ハスツの枝地 今ハ五の徳 天糸祿樂湯乃花

内の初穂 四女壽をれ鉾よ立身

右天兒あり侍侍受あり

天児の姿

制衣作口傳



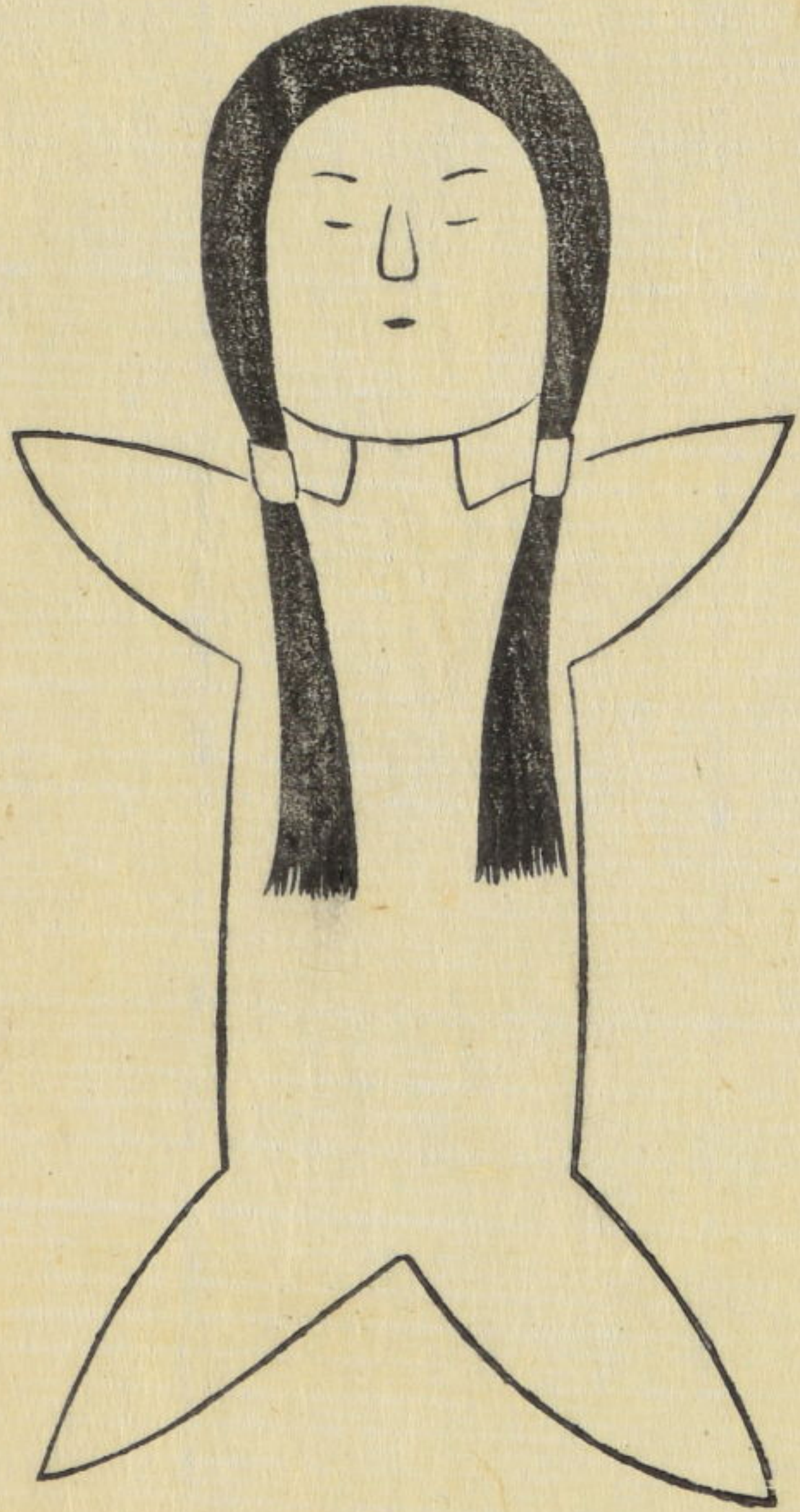
天児較年とささの侍五かきとほりもあまの侍  
天児白小神女紐 為糸 松竹 雲雀 金環  
のり口傳

伊加這子

一 伊加這子ハ目出度旧老の方より進すべし口傳  
天児を略し 輿乃先系と云りあり 小神ハ天児  
同前口傳

伊加這子れ圖

あんなーさぬぞり口傳



宿直大之場

一宿直の大一對男は龍向を猿一に相沖守と入る右白  
祝拍と入る女は化粧の具は入世に類よ又大をとり  
これより起る宿直大之場

宿直大之場



ちげのおとぎさくせー方ハ七束の川出おるぞー



一 夜車と申すものやれを定はりて夏日本成麻呂

おかしな話に傳ふもはまらうとて漢字のよはあはれ

悪法のが

おしごぬの人いさうかなれのみ成教おたのむと知りぬる

一 芥子には伝あり

筒守の半

一 筒守嬰兒を養ふにれよけ緒とけびとて

おろかり常れ地ゆるも日一ゆかり子早州常とて

もしくはさり性拂まよ一が歌てめれ半あり

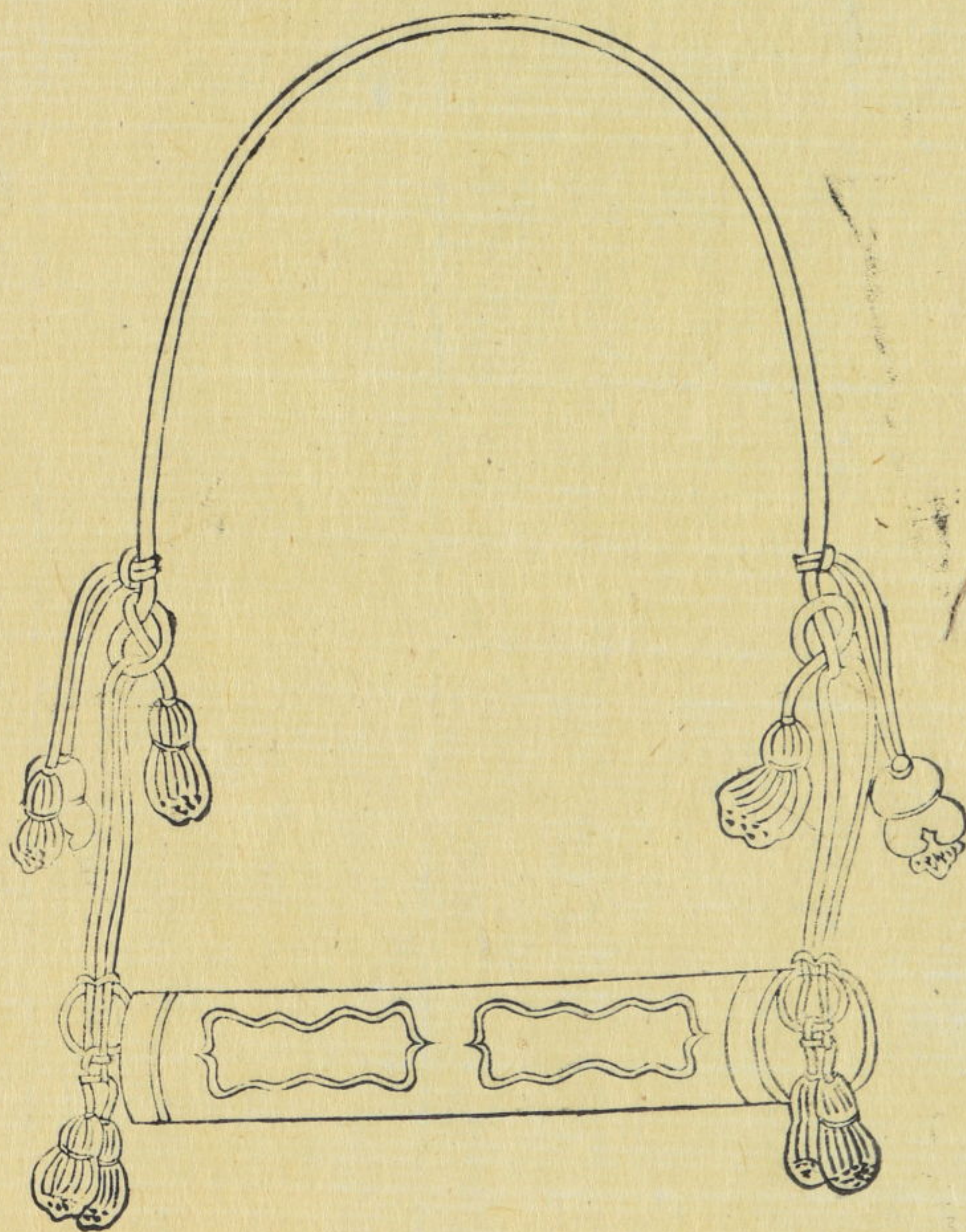
一 金物露無衣弁家の紋假彫環の牽よ丸は麻呂太に宿

飛は傳

筒後之書

寸法は傳

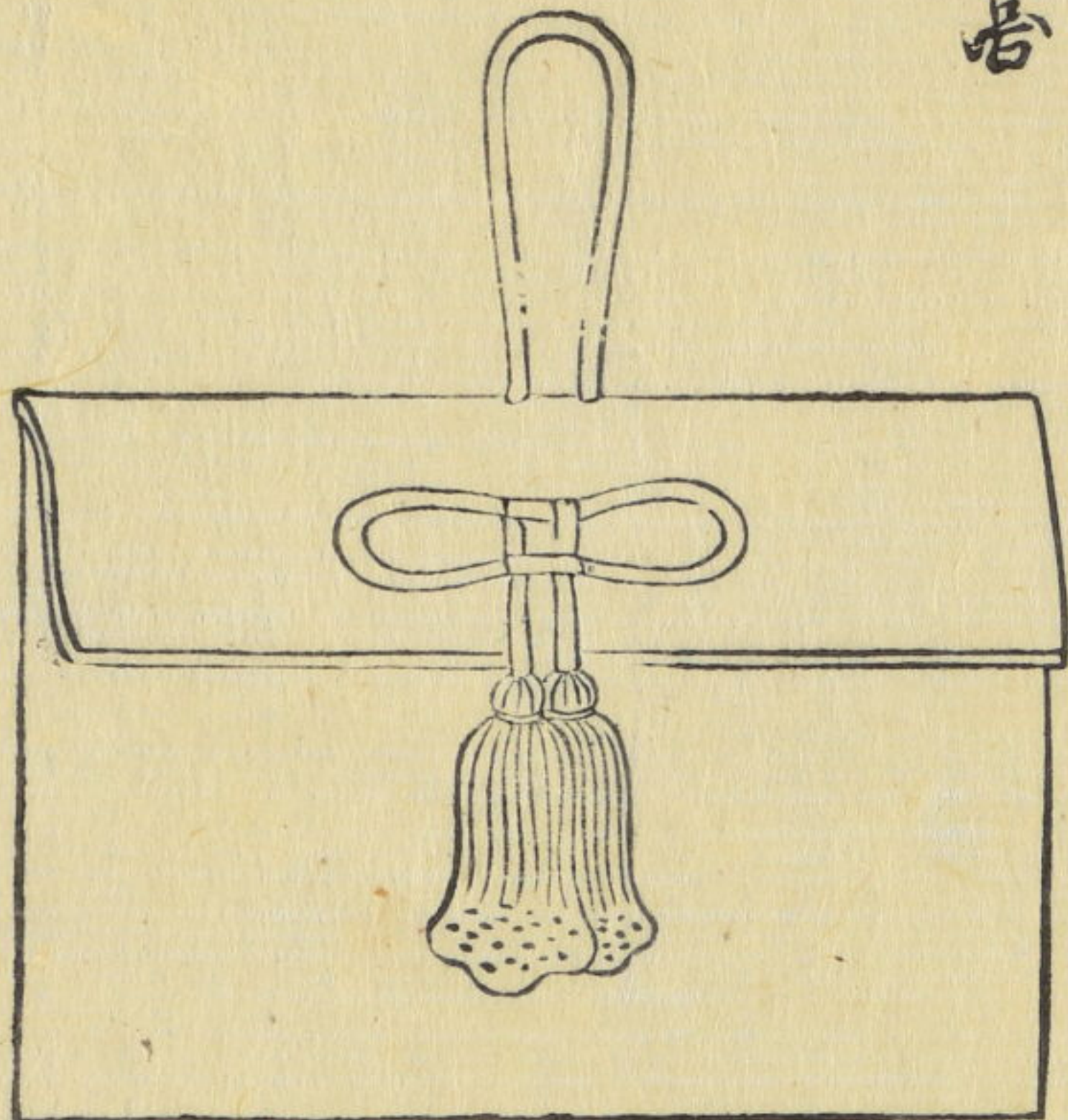




帯の守服指袋の事

一 守服指袋は綿合蘭法と紅毛の紐表に縫ひとび房付の紐指袋（其法びよつけ紐差福の法）を以て傳

帯の守袋の事



寸法は傳

内脇指袋の圖

制衣作に傳



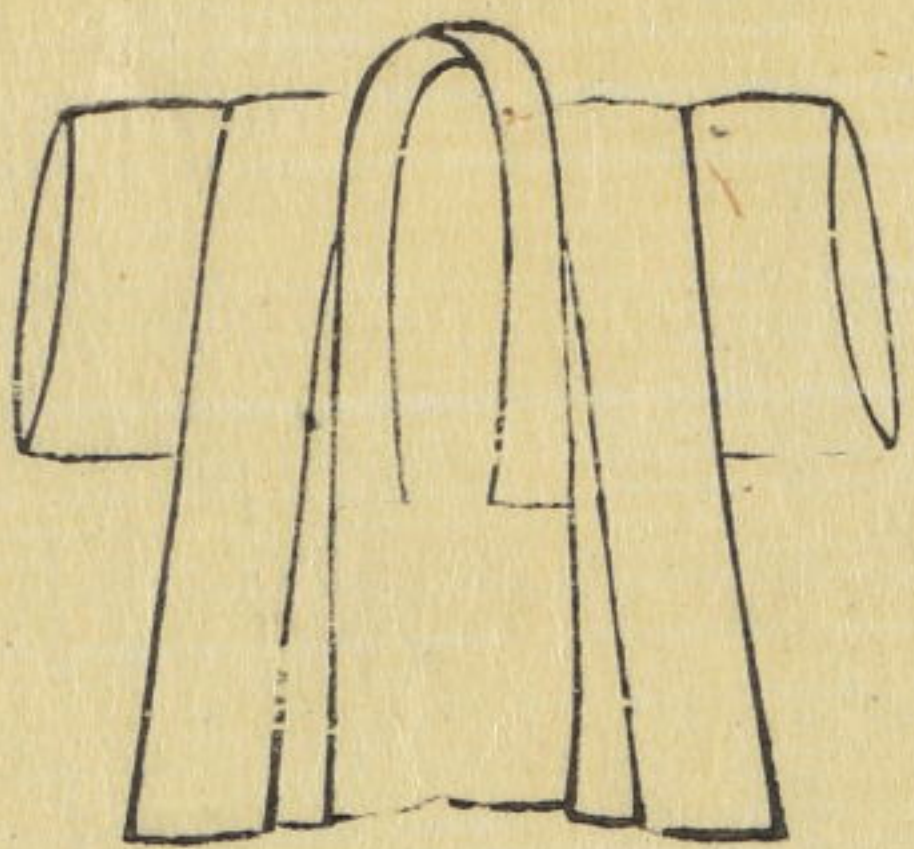
大人の奥方妊ありて纏帯とやそち終日より七里風茶  
切りとひくちかひにまるといふすなり口傳

疳取小神の事

一 疳取小神又初恙とてか新おし衣とて七歳まで天兒よと  
せそのら嬰兒と恙とていふなり  
一 かにとり小神做すれせ衣と練唐標に條小紋とつり裏とて  
嬰兒よちとすなり口傳

一 かにとり小神裁ち練衣の幅何れ口傳

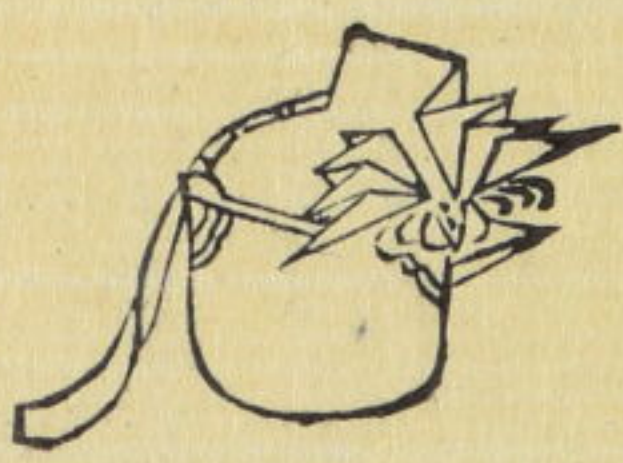
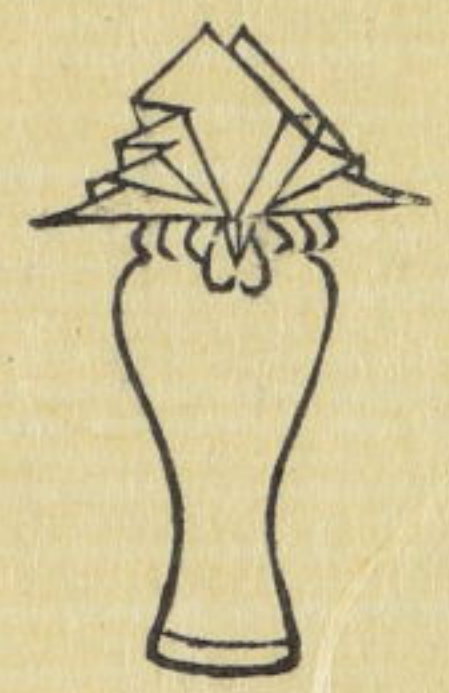
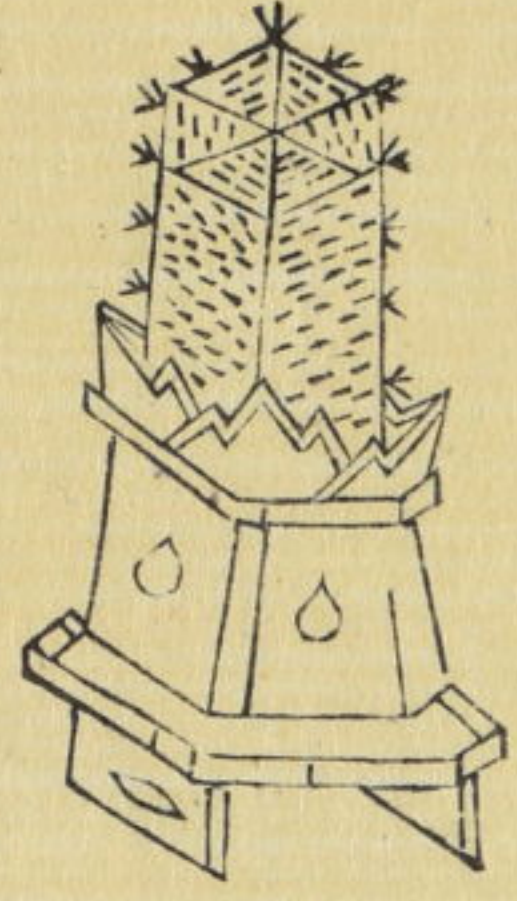
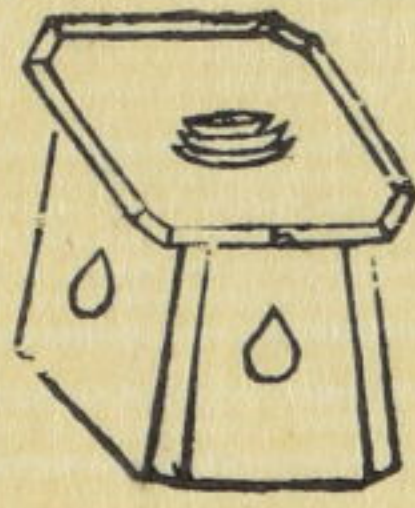
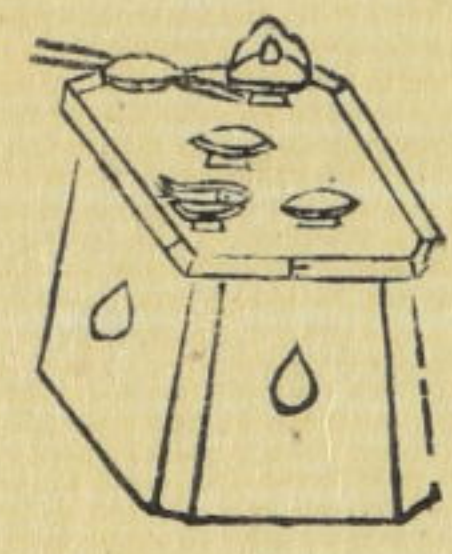
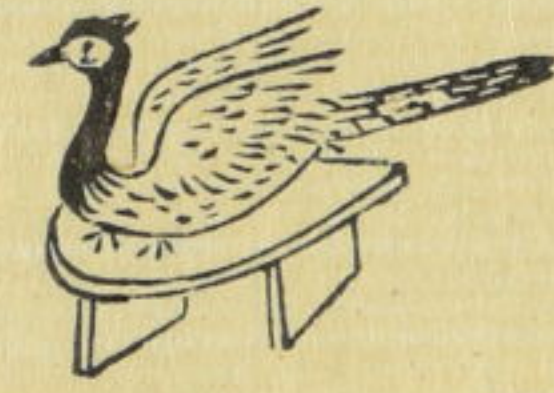
疳取小神の事



疳取茶 積雪茶 端通 連銭州 地沙サ 各に傳  
一 疳取へ引出地のゆあり  
一 他家よ蟹と疳と小紋と付おろもあり何れ口傳

祝言床勝之場大畧

飾り付



一 饗膳に記すハ祝言の時より常レ食膳ハ又異なり

一 蓬萊と祝言の蓬萊其のほらひ整りなり

一 蓬萊の臺例漬の三品は侍との介松よりなり

一 七賢の玉歳玉冊 壽老人 東方朔 祝延 祝言坊 三天 浦崎

巽に鶴鶴 松よ雛鶴 巽に竹 烏糸妻竹 烏糸巻 紙子の

臺 鯛の皮巻 里眞鹿角 苦骨杖 梅の巻 椿の巻 別

の物 談の臺何しは侍は介十二の臺とりよりなり

一 茶碗の臺左の同敷により飾る不務ありは侍

一 茶碗祝言一巻ハ茶繁多に〜〜〜紙と〜びか〜毎卦に

寄しなりが〜〜紙念々に筆〜寄し多〜は侍は実多

〜〜のう〜〜に中〜〜

一 日世厨子具棚に記す〜〜中〜〜板の〜〜



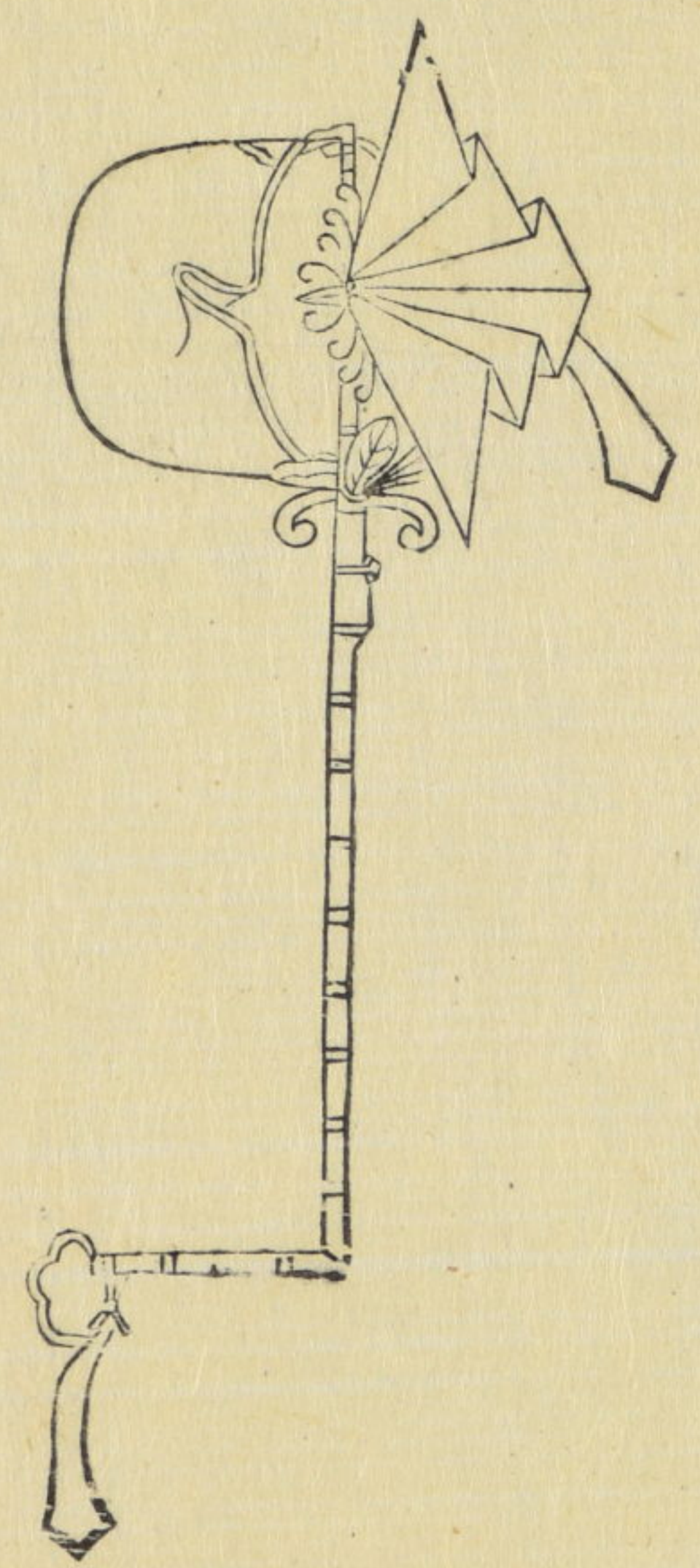
子れ実や男女のうり文には傳

一 雛子の飾提籠子の傍にゆづり系松の系繫二為して  
陰陽れむび死ハ梅棧橋菽榊子叶想のびとびと  
多尾 羽衣束の口傳多一

一 雛子の飾と世に金銀紅紙とびく蝶形と一傍に文  
のふりといひて人の目と悦一むらむらとて提  
を一す金銀紅紙乃蝶ハ揚羽異の蝶より行ぞ夫婦  
万年の祝事に一季の文にきりこぼる蝶と月ひや一  
笑よゆび南流白流ハ蝶と月ひや交秘傳より死  
独にかざら等のみには傳なるを記さす又叔父に酒の  
媒とく目出度子細わり口傳原紙干て傳之  
一 祝言と桂姫桂女と月ひやのりには傳

一 同輿貝桶行名流志事口傳

一 庭の松竹打合紙燭指あくひの三つられ祝又百八十乃餅  
胎妊の時御芳彦の飾又系喰初袴意元振にいける  
まをなると又十百品にわすす御芳彦にわす  
雛子提子籠子の器



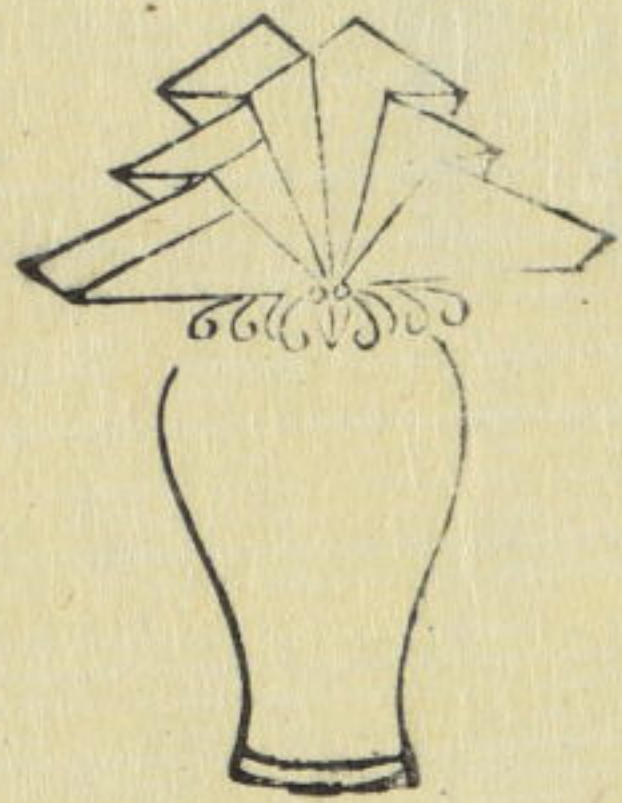
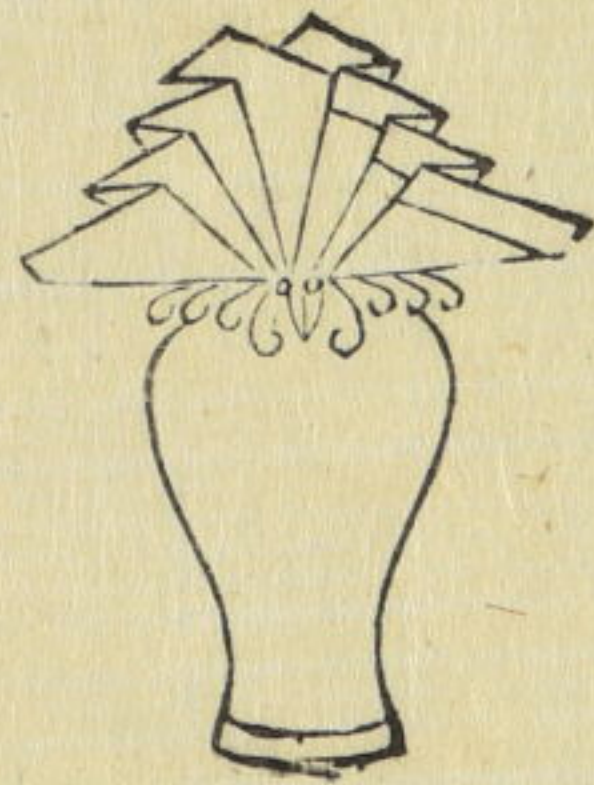
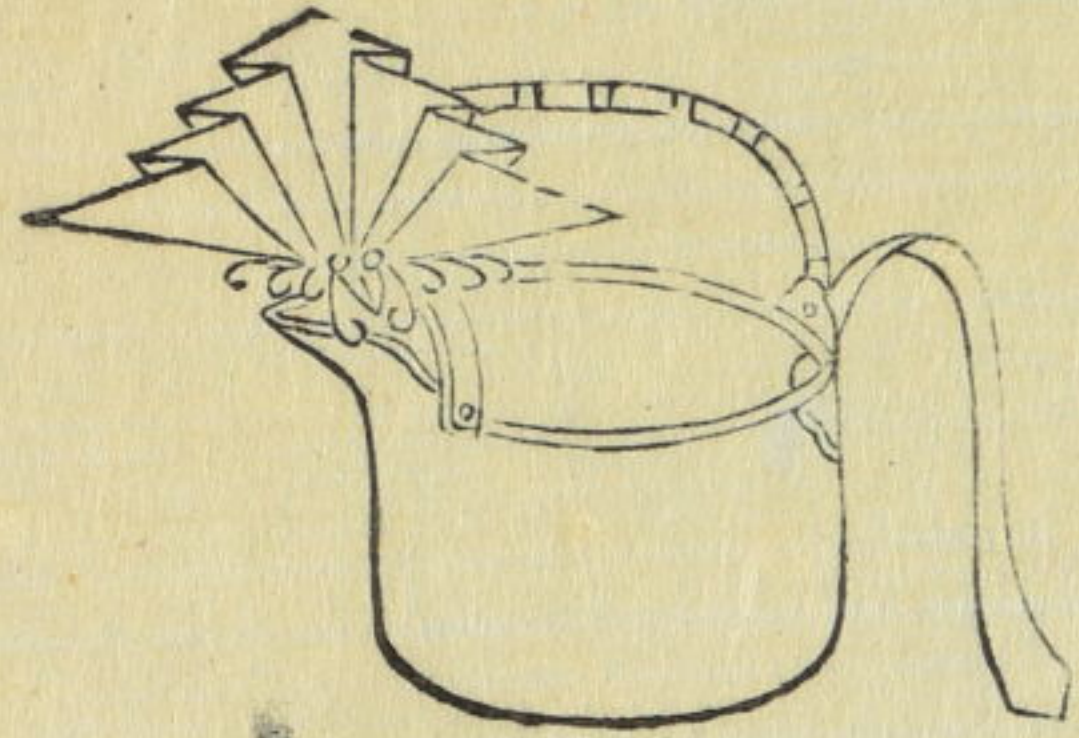
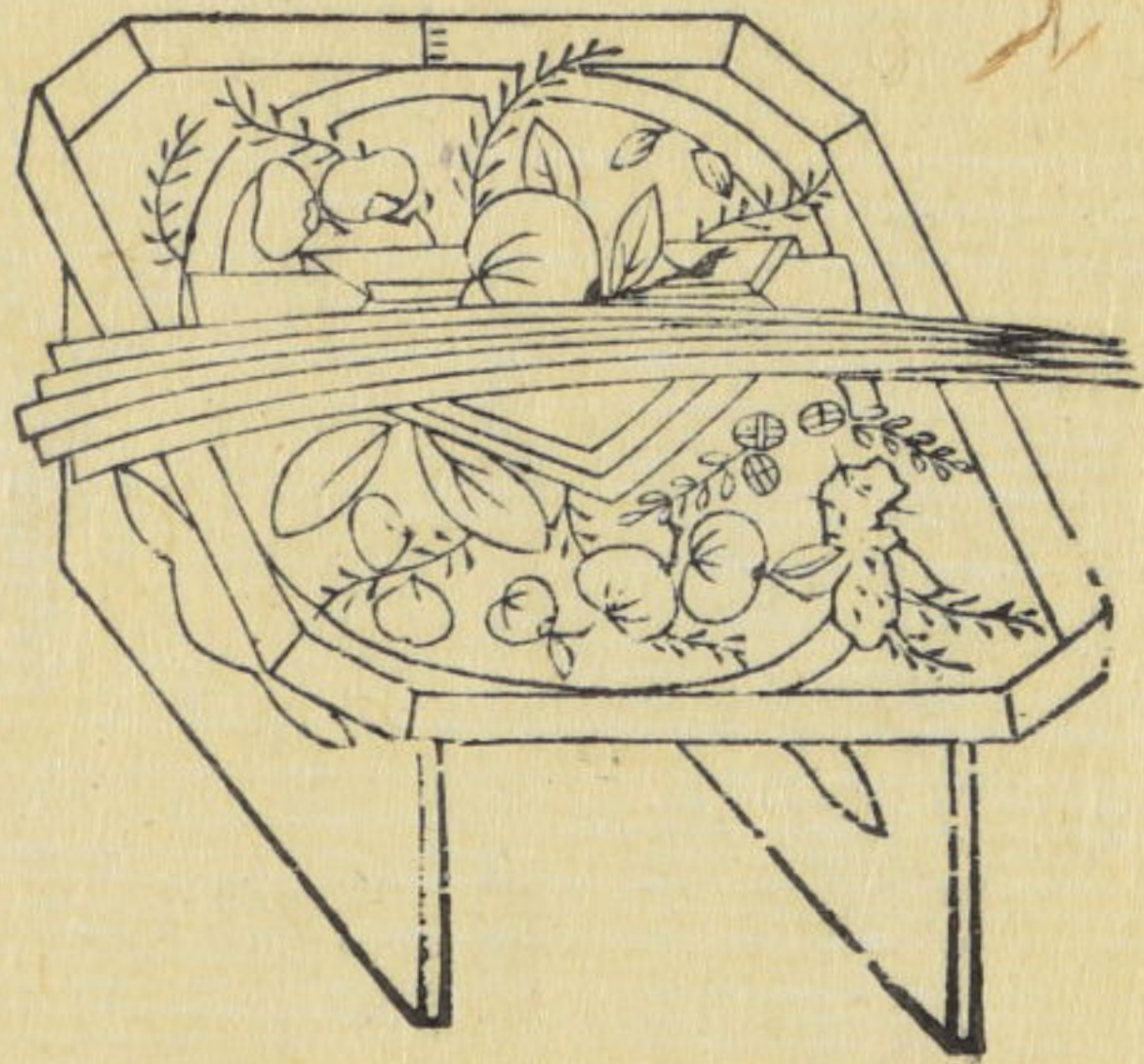
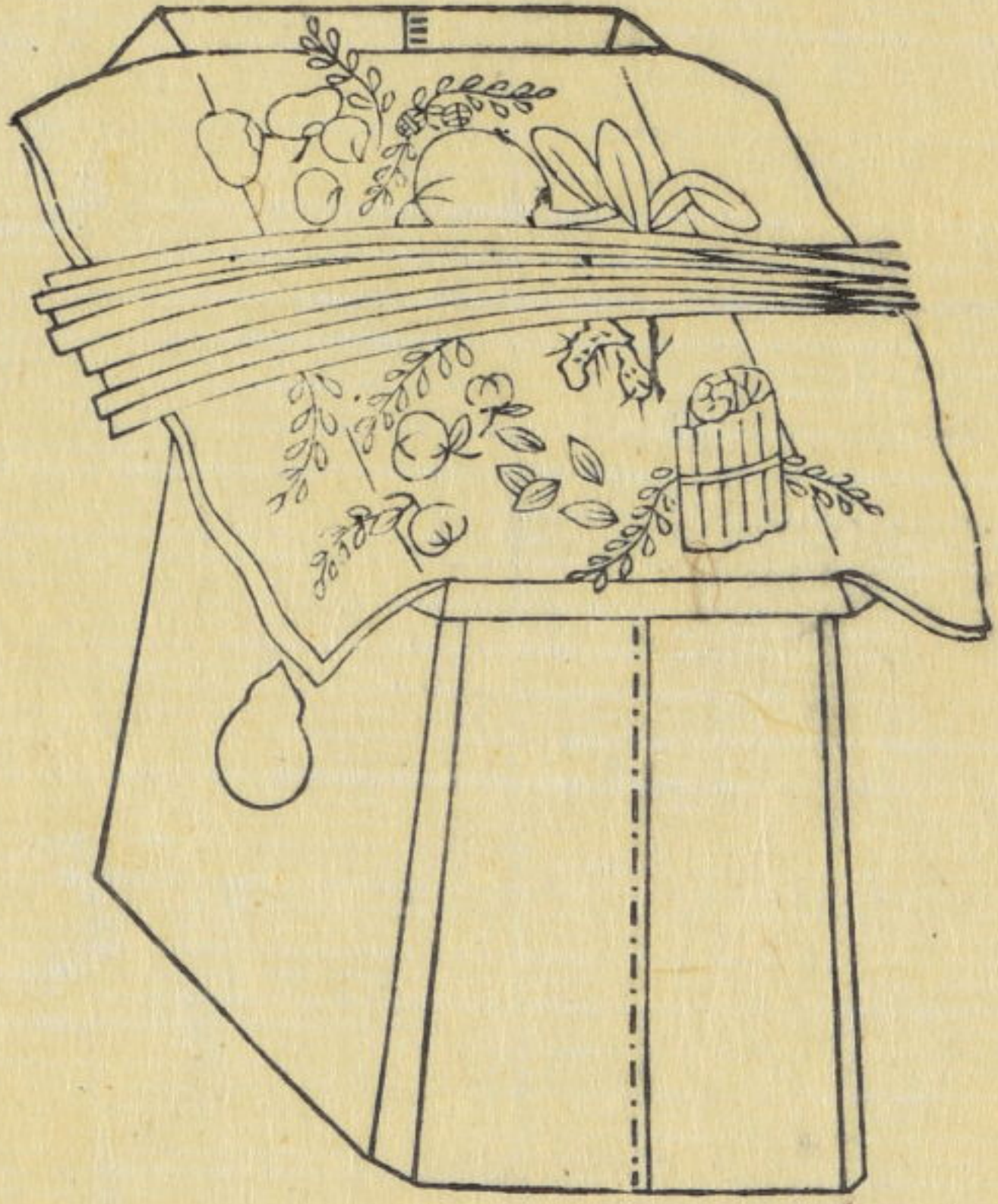
五節<sup>セツ</sup>の<sup>イ</sup>く<sup>ク</sup>次<sup>ジ</sup>束<sup>ス</sup>

正月

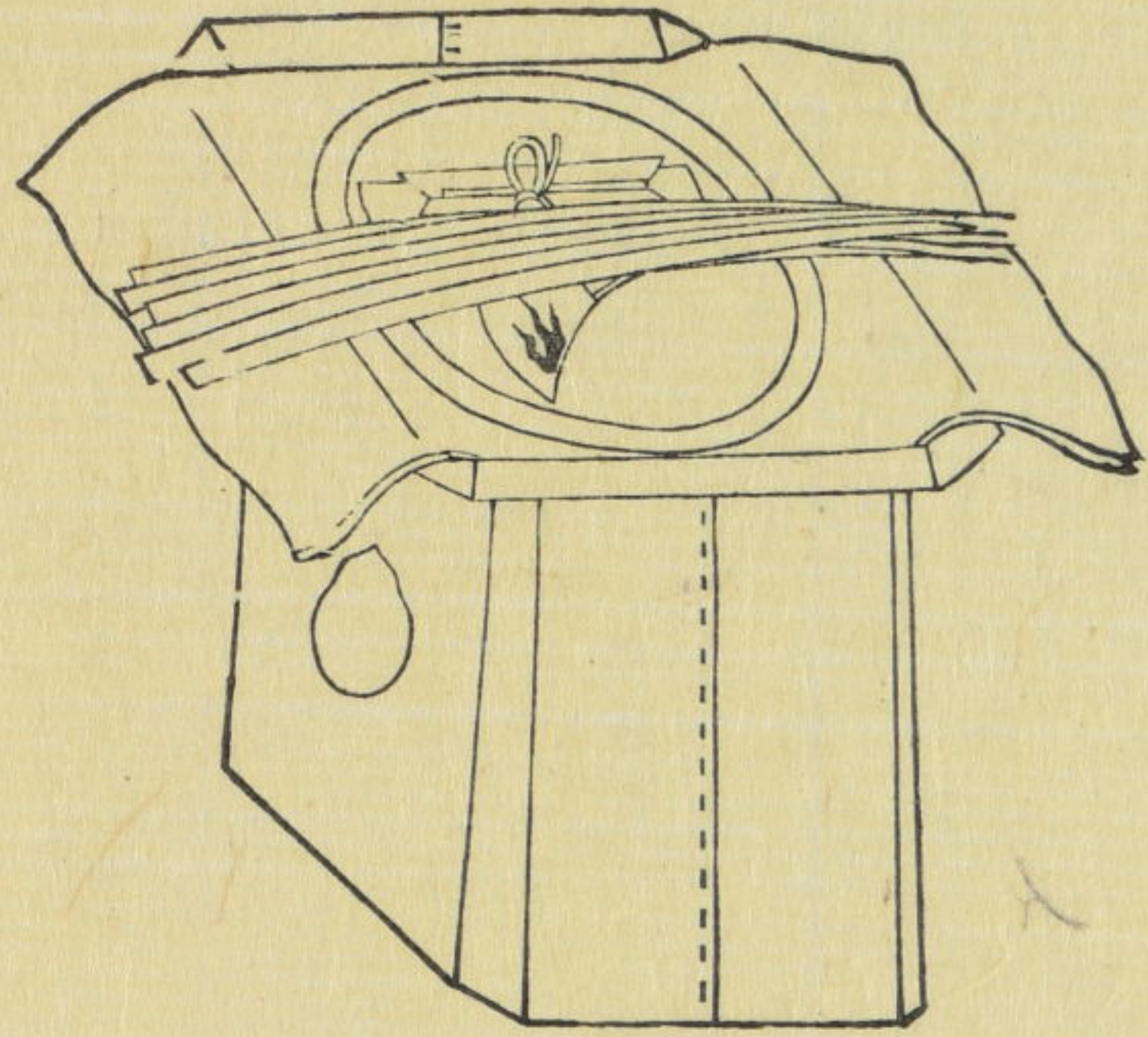
子<sup>コ</sup>掛<sup>カ</sup>の<sup>ケ</sup>呂<sup>ロ</sup>

菴<sup>アム</sup>葉<sup>エフ</sup>と<sup>ト</sup>も<sup>モ</sup>よ<sup>ヨ</sup>

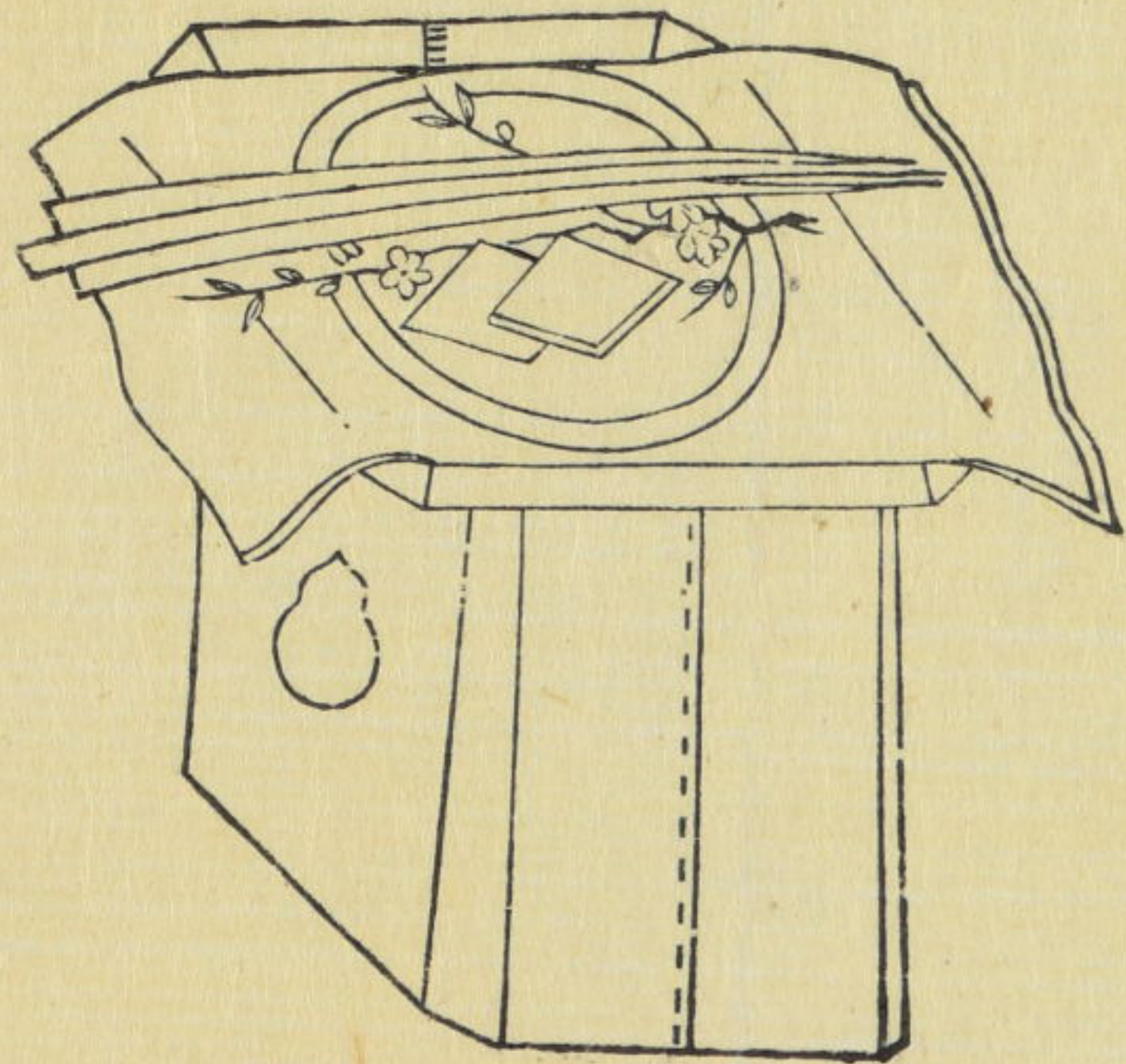
齒<sup>ス</sup>堅<sup>ガ</sup>の<sup>カ</sup>圓<sup>エン</sup>



正月七日

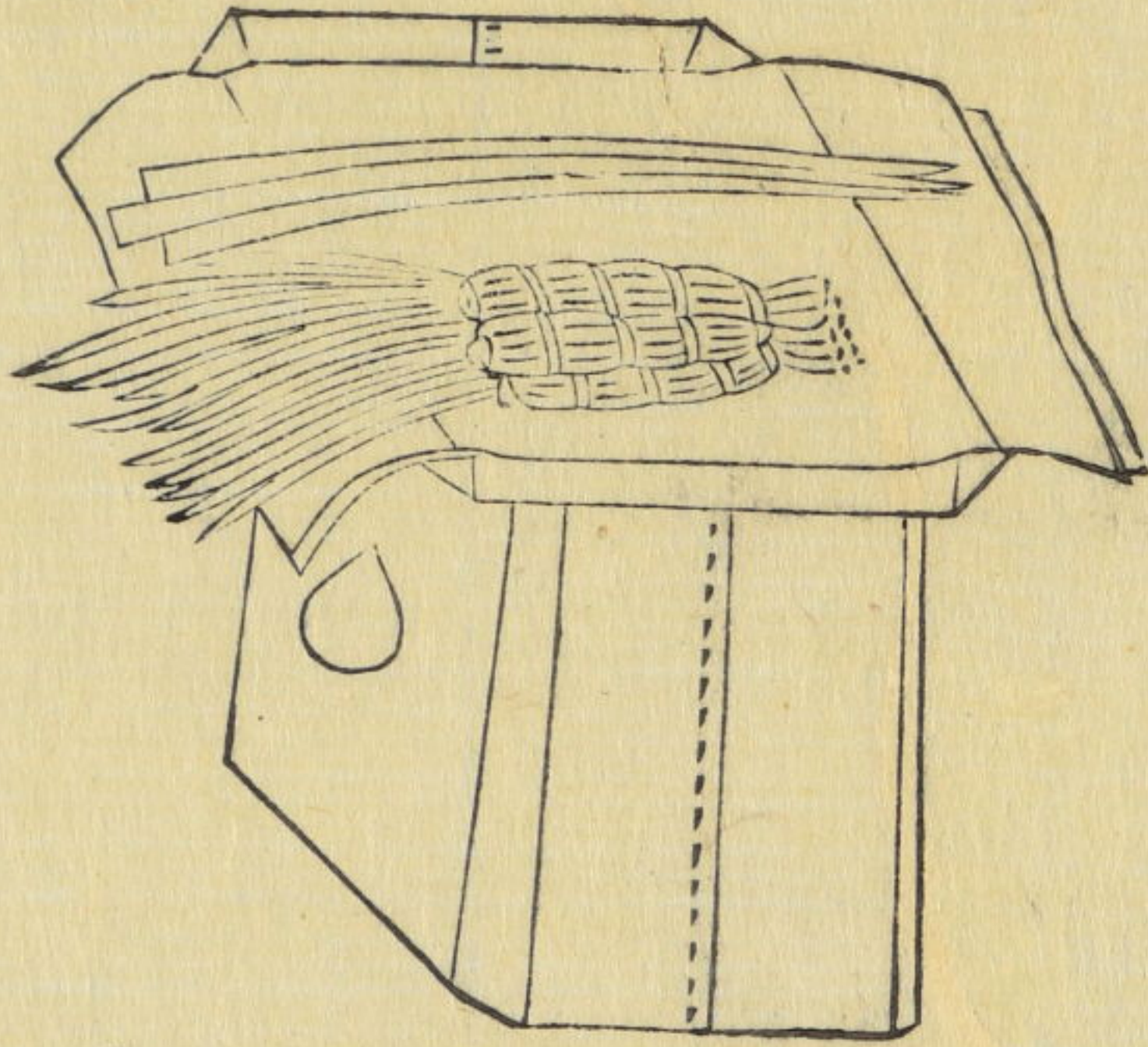


三月三日

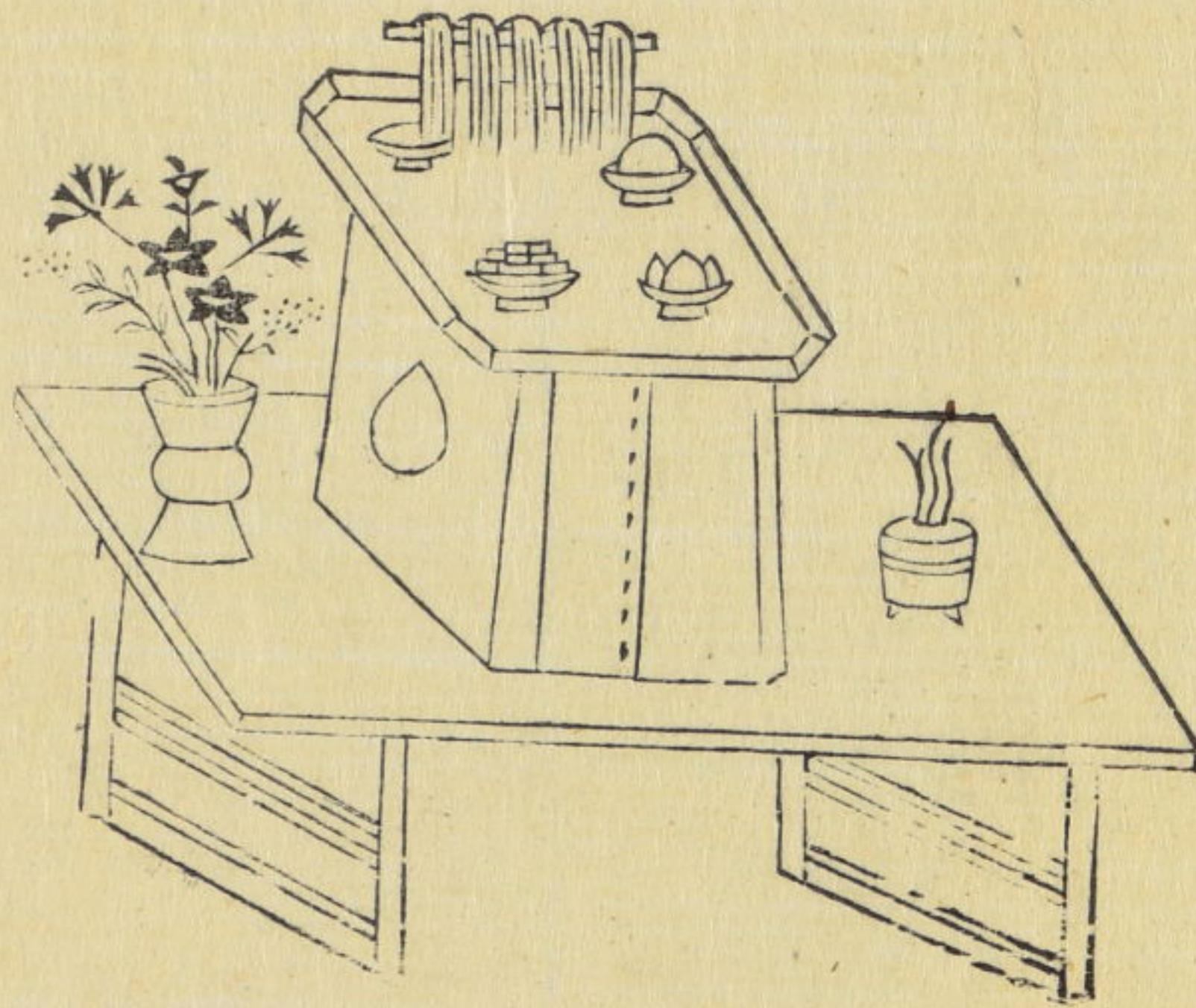


古十三

五月五日

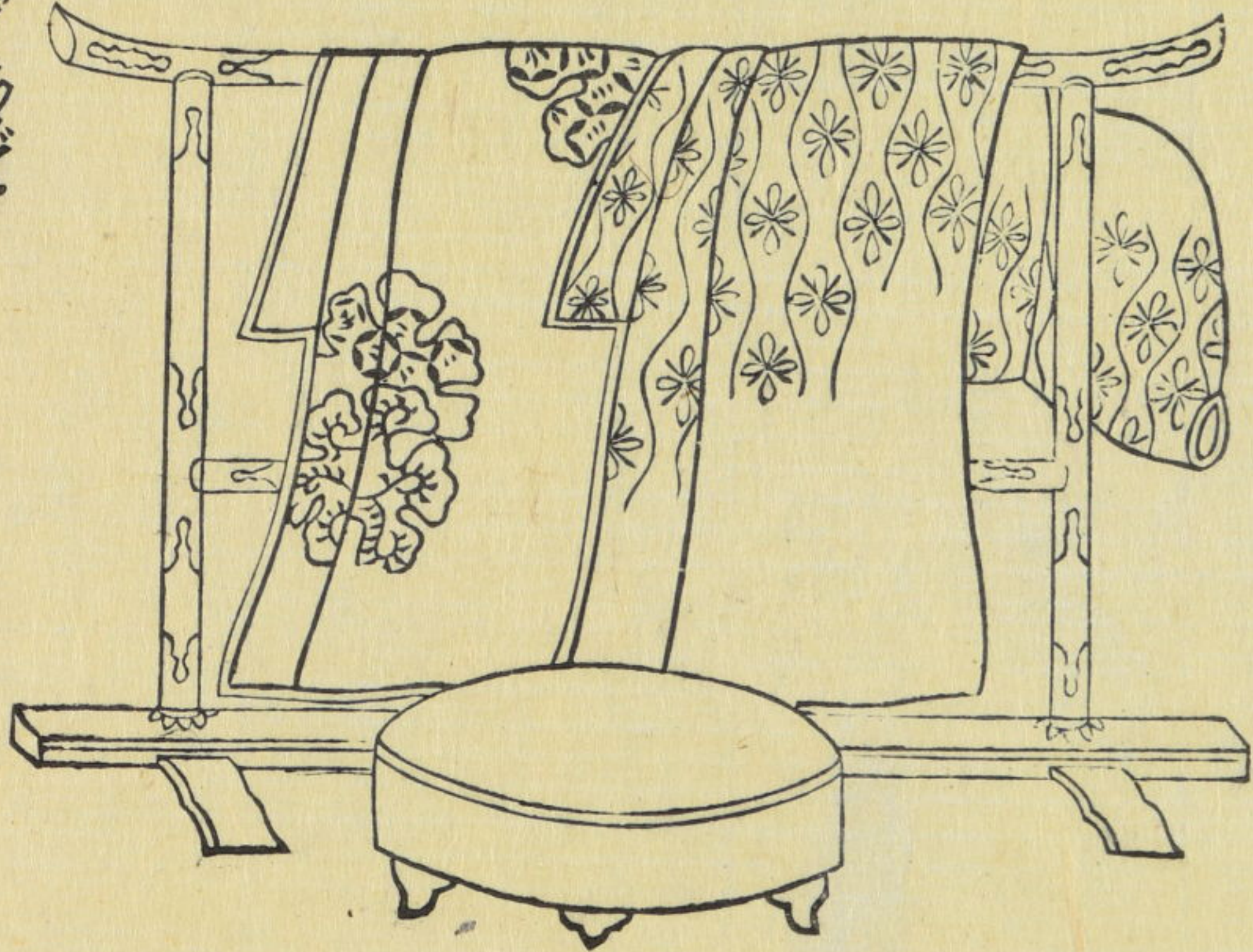


七月七日

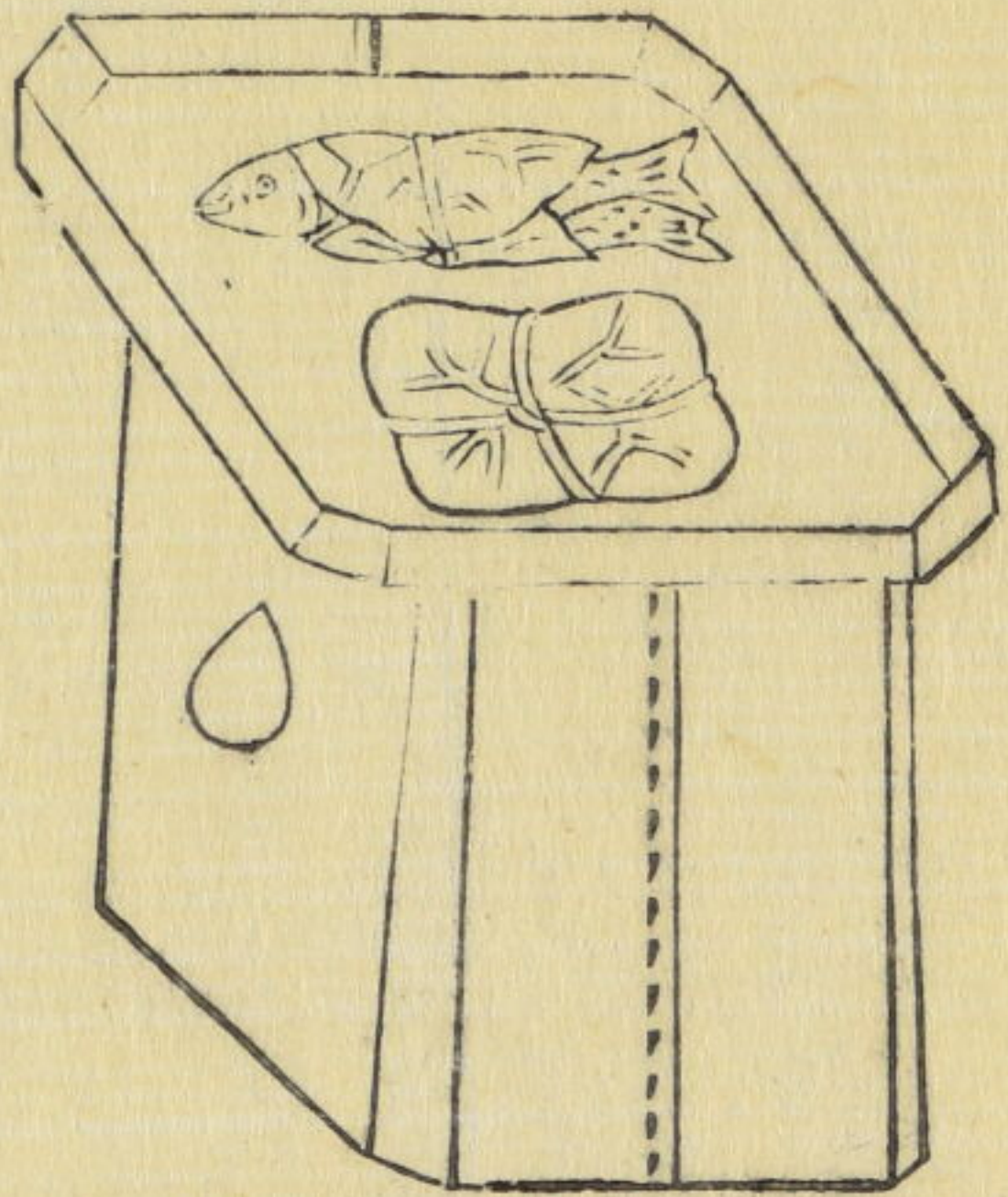


七夕祭

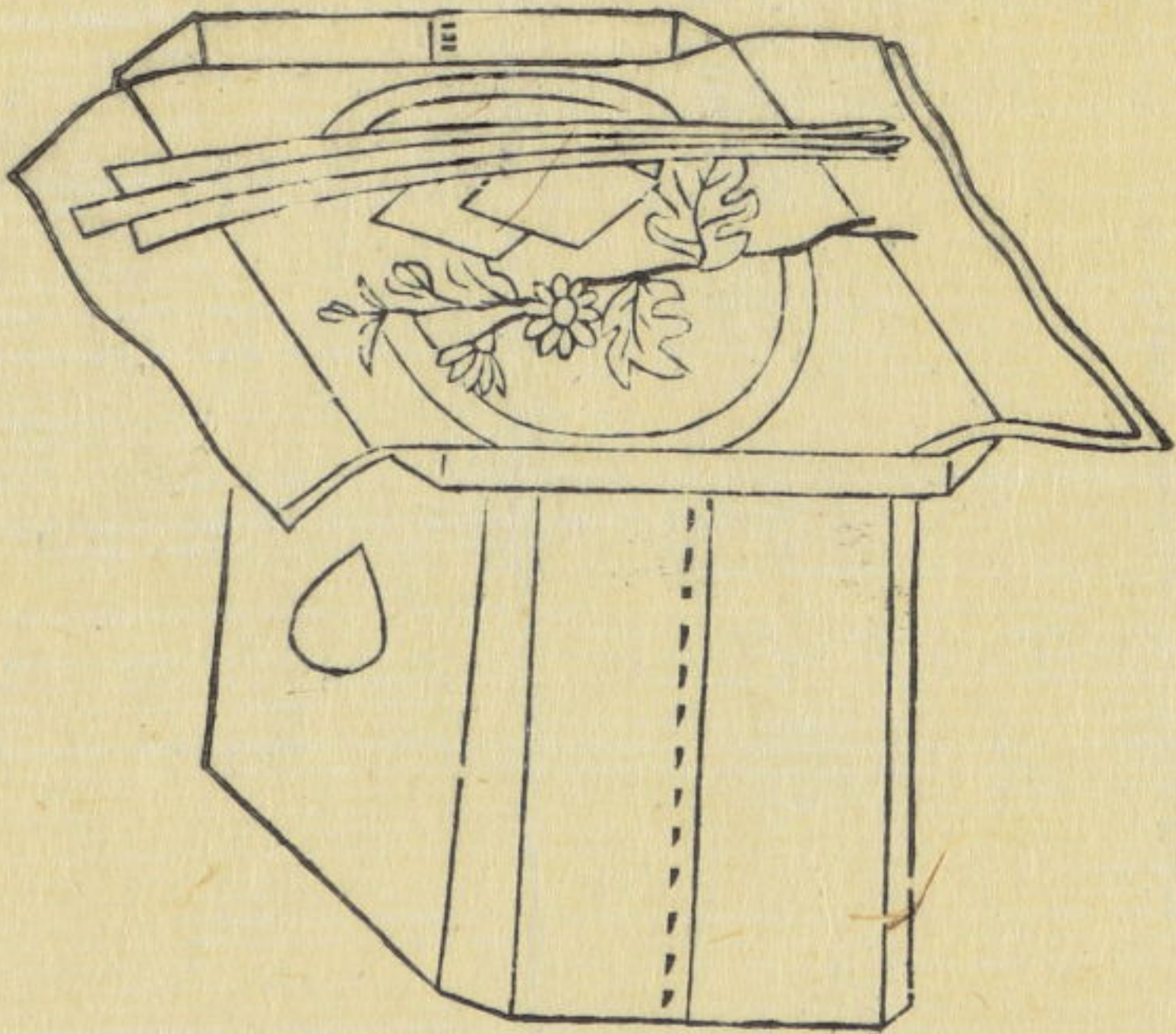
一 七夕祭のうら七月七日は  
 牽牛織女の二星と雲の  
 衣とと西移し机の上に香  
 花と徳文と古詩を飾り  
 竿に端に糸の糸を掛て靴の  
 多と移る三年に必一靴  
 納枕とと云故言と云  
 乞巧奠とも云 七夕に  
 衣とすききくおひも  
 け衣の七夕に古詩を  
 飾り大いせよわらわらふれんふはせ



七月十八日



九月九日

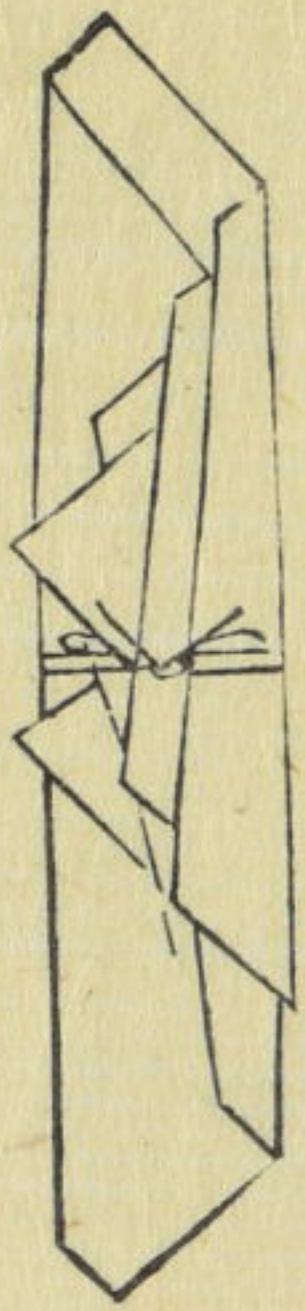




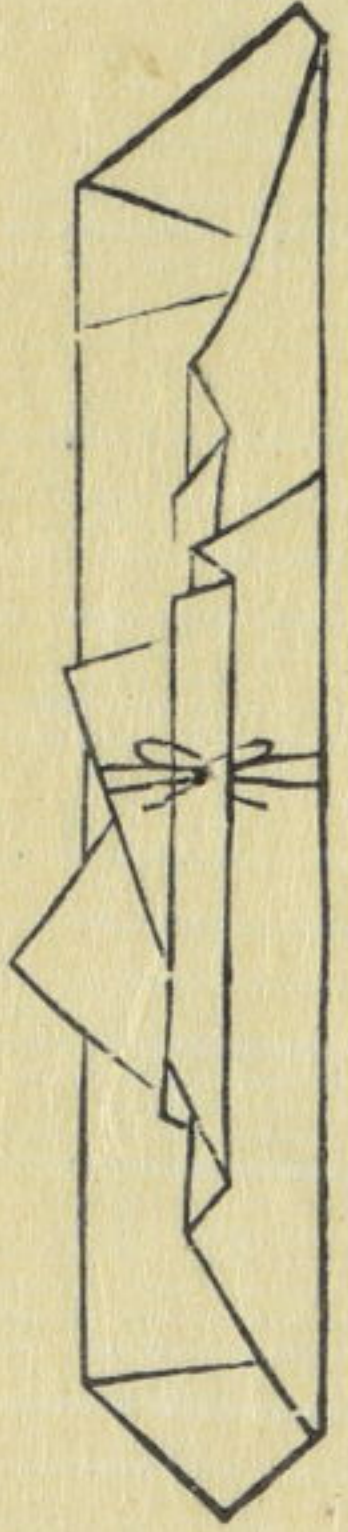


折形ふくぬ図

おびつみ 中とよりしを結ぶ

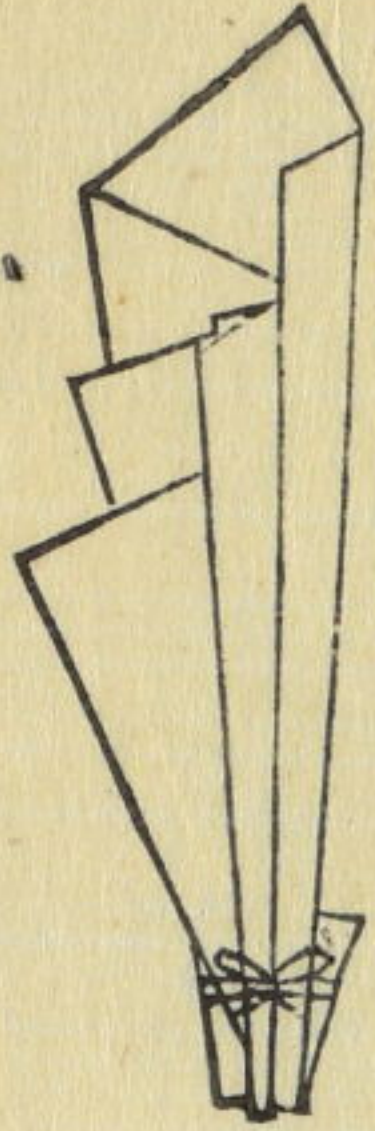


のほろり目

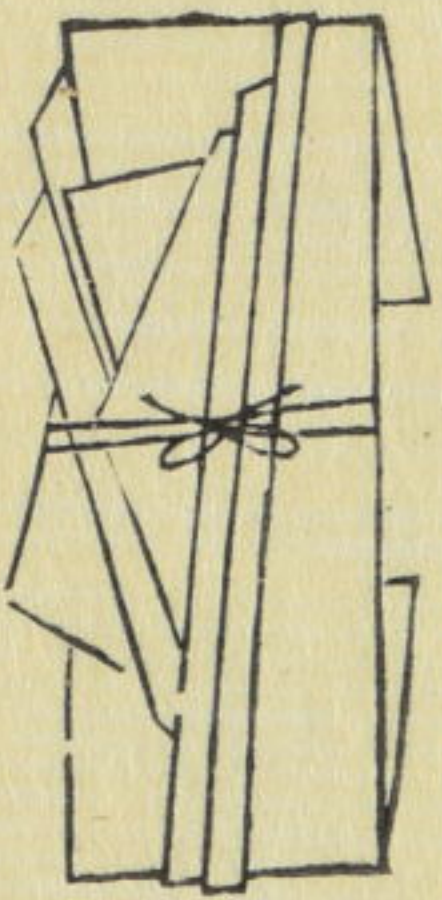


まよ

あつあつとまよりし



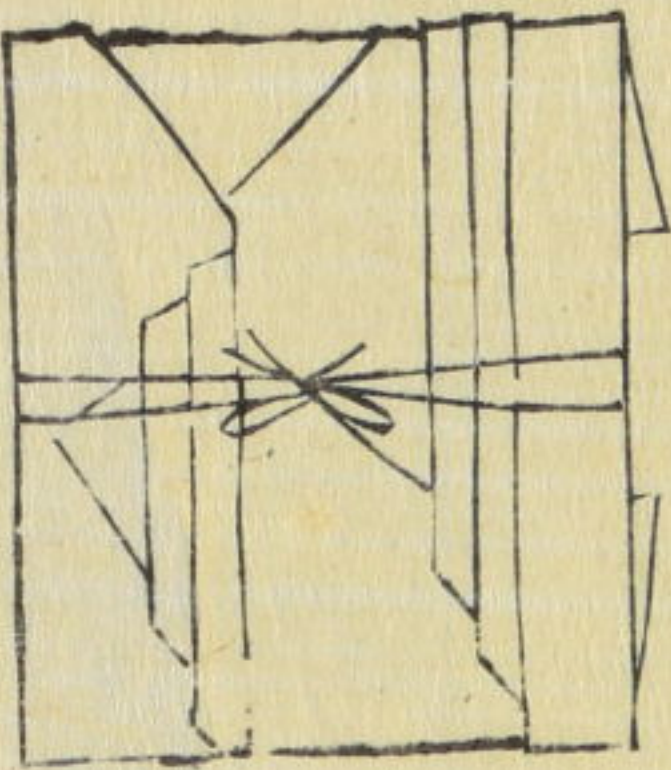
おびつみ目



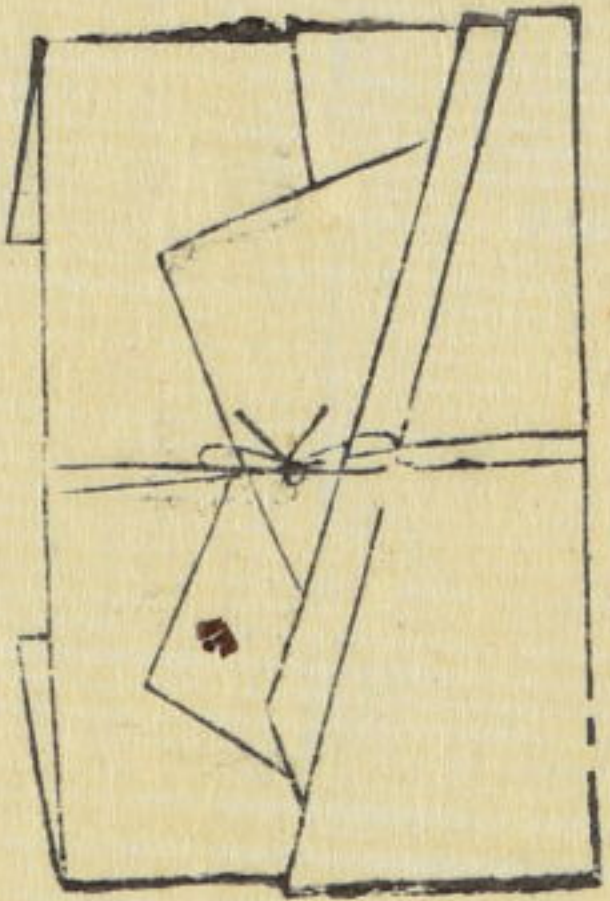
おびつみ けいひのめい



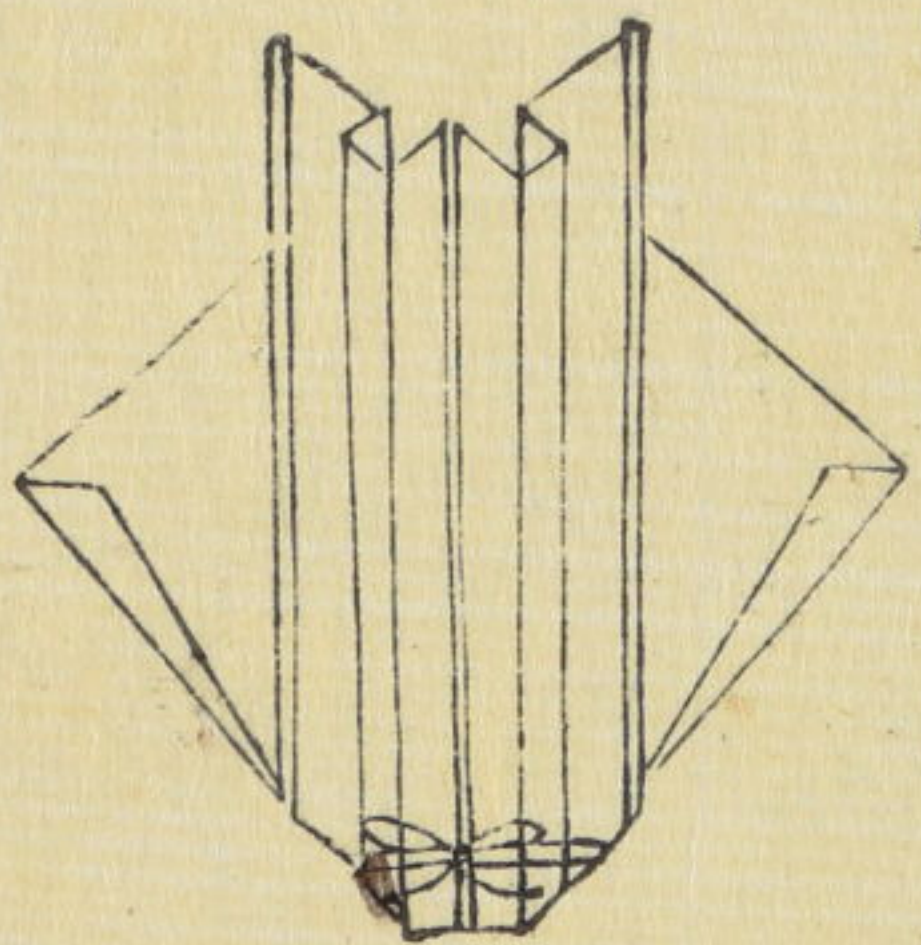
おびつみ



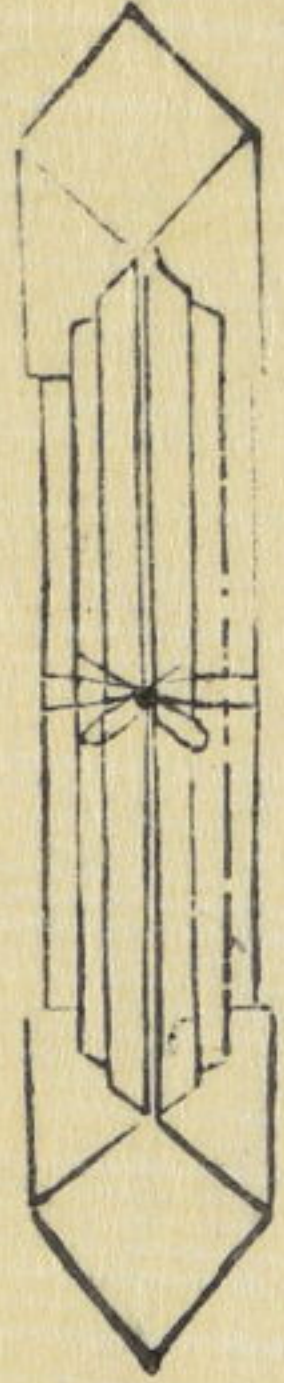
おびつみ



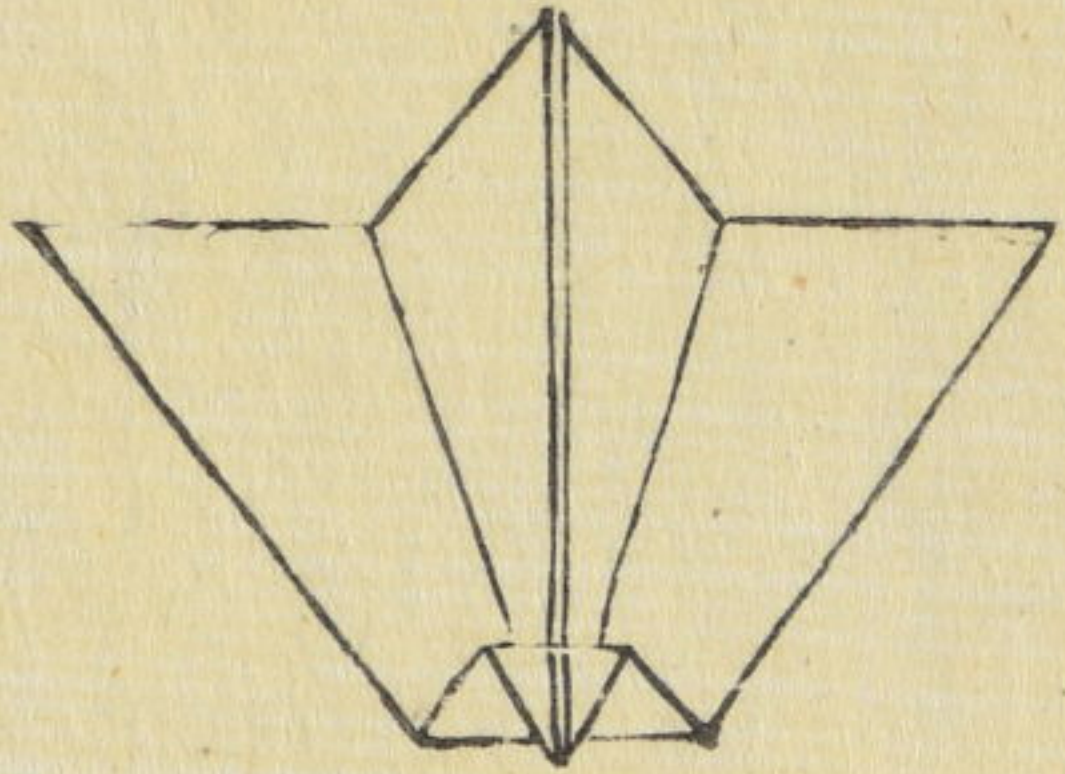
おびつみ



おびつみ



おびつみ



一 結形抄方のふす十百にあつねども常に入るゝの多うす  
しづくく記さんふいとぬわすト其えやとれりの入るにのみ  
一二とわすす余ハ唯何ゆゑく増えたるべし

貝箱之事 概リ 命せ貝容之を子細

貝合ハ之妻りのうもていづきの世よりとどまるとまよと  
あらず五葉 源氏地がらうとどまらば後を何候し  
あけのにおに

一 貝合の貝ハ耳白と用べれなり  
今ぞしるすこの浦のとぬがりとるあせとくひらふりの  
五葉 南時長袖と云ハあやまもり貝箱なり冠桶と箱とあ

やまもるがどく

一 笠とバ龜甲八角一圓より式法ハ龜甲なり八角ハ中  
より一色又下男なり

一 龜甲ハ龜ハ万年の壽成なり是と祝しくなりはま  
を被るの外祝言れ州の一装束皆龜甲の白紋なり又  
幸蒺藜とりも龜甲なり又妻愛をいもいふ

一 式法ハおの外とるご時給壽龜甲根笹内とよ  
ささこまこく流心常此類びよは外利ま地村砂粉なり  
略法ハハらりしと微粉あつひハ金銀の紙とて張る付ハ

一 五葉八角ハ周易八卦乾兌離震巽坎艮坤父母長男長  
女中男中女少男少女是なり

一 圓ハまじらうなり天地ハ鶴卵のぶくととり鶴卵

と申すにたりとこれにんちりしとくみく孫くさく  
くちりんとお祝半すや

一 貝桶をり次の間にしりゆかへ出さず

一 緒ハ小児じとびり家貝おとち貝おと同一小児結  
るまじもんちりりすすむあり

一 先貝ははづらにハ毛種とあべ

一 家貝箱たよ並べ一ち貝おたよ登る一ちと云ハた  
るりちと云ハたるり貝つるとれゆれとあよ一と云ハた  
りハち貝るりひざりれよにちちちち貝なり

一 五素出と云ハち一てまのり地と云ハ女一てちなり  
ゆきに主婦と實なれど一とちゆんちの故よ出と  
ち地とちとくべ

一 貝の内と合粉一して原氏の法と扱来又よ云ハはわり

一 ちハ御書よどの熱きゆくちり

一 ち貝乃ちへちたま一ちわりは

一 ち貝ハつ出とちりちちす変わり貝のおほちた

傳

先比とちして出と出と一お美人のちとち  
へに出とちハわりちりハち貝よち出つけちた  
よんちとち合とべ一ち貝にさいくち代はち  
かちちち一上落の秘りつてちちちちちち  
ち代ちちち下ちちちちち目ちつてちちち  
よちちちちちちちちちちちちちちちち  
合とよ貝のちちちちちちちちちちち

ひるもの合もくさるんつけ終り貝ありせば一と  
 かりしつらまどアどろものなればゆと出ー終  
 まずともおりにゆびさー終りてまもりけが坊  
 ざりてせてあくらせたまふべーむうぬれ地とこ  
 づーごらんとー終りくもろひぢらつてあろ  
 くれはとらろのようぬれとちろべーおりのも  
 ぬくそのようぬちろべー<sup>ひら</sup>娘君のよいづういでぬ判  
 い八貝ありせらるるねとも<sup>か</sup>おのまぬおもとらろく  
 とーへればんがあろべーこにくりーす

一 屋敷侍児ハよとがー時とくづてもあざれあろひ合  
<sup>たひあ</sup>奪合が娘まらろへ乃<sup>お</sup>礼養るりもせぬとづさの貝<sup>い</sup>て  
 腹み終りゆらりあつてのむぢらつてもぬれ出ーと

よつこのまもくさるんつけ終りす但ーそれとくもは  
 とく乃<sup>お</sup>判<sup>お</sup>あろべーんぬぬおりのもととくど  
 とと<sup>お</sup>娘<sup>お</sup>まらろつちろまハ娘君とくろくやうれもと  
 ぬへ<sup>お</sup>流<sup>お</sup>ん<sup>お</sup>と<sup>お</sup>まらり<sup>お</sup>ぬらりまさけありん<sup>お</sup>まもやろろ  
 ぬくーれとゆべー<sup>お</sup>お用<sup>お</sup>の<sup>お</sup>お貝<sup>お</sup>の<sup>お</sup>おと<sup>お</sup>ひも<sup>お</sup>お  
 ちろろべー<sup>お</sup>つと<sup>お</sup>り<sup>お</sup>せん<sup>お</sup>んと<sup>お</sup>おー<sup>お</sup>つ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>終<sup>お</sup>る<sup>お</sup>べー  
 一 貝あり坊やハ<sup>お</sup>行<sup>お</sup>お<sup>お</sup>と<sup>お</sup>合<sup>お</sup>と<sup>お</sup>ろ<sup>お</sup>め<sup>お</sup>たり<sup>お</sup>実<sup>お</sup>と<sup>お</sup>わ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>貝  
 と<sup>お</sup>と<sup>お</sup>て<sup>お</sup>わ<sup>お</sup>り<sup>お</sup>貝<sup>お</sup>れ<sup>お</sup><sup>お</sup>後<sup>お</sup><sup>お</sup>た<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>ら<sup>お</sup>り<sup>お</sup>は<sup>お</sup>侍  
 一 貝よりや<sup>お</sup>お<sup>お</sup>右<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>お<sup>お</sup>と<sup>お</sup>左<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>貝<sup>お</sup>の<sup>お</sup>お<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>お<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>耳<sup>お</sup>あへ  
 く<sup>お</sup>お<sup>お</sup>む<sup>お</sup>お<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>ゆ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>乃<sup>お</sup>ど<sup>お</sup>ゆ<sup>お</sup>か<sup>お</sup>へ<sup>お</sup>なる<sup>お</sup>や<sup>お</sup>り<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>り<sup>お</sup>て<sup>お</sup>  
 ま<sup>お</sup>あ<sup>お</sup>る<sup>お</sup>なる<sup>お</sup>か<sup>お</sup>ぬ<sup>お</sup>れ<sup>お</sup>ま<sup>お</sup>け<sup>お</sup>に<sup>お</sup>ぬ<sup>お</sup>お<sup>お</sup>く<sup>お</sup>ぬ<sup>お</sup>べー<sup>お</sup>  
 は侍あり

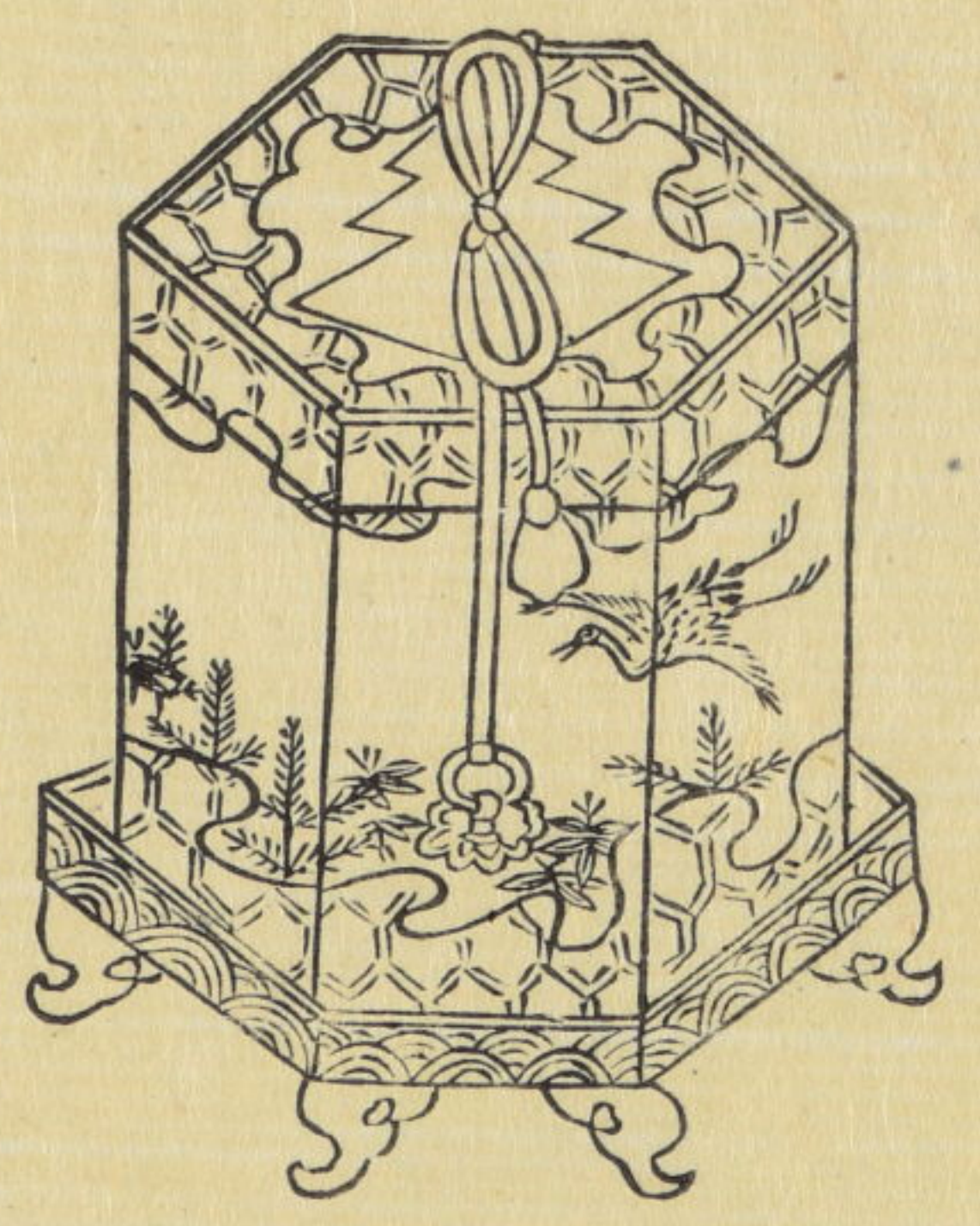
一 貝のまねや貝より仕籠としてまゝの方へまうくままで  
 てくづきぬやうにねよ入べーある貝もくまの貝を人  
 侍児うさうこそ入をー入やハ丸くまねくまがり  
 めるなうりに ねいぬめやうに中ぎに幸螺まづのや  
 に入べーち口はわり

一 貝ゆるまきくハ娘もむなぐさみよてづらなまるべ  
 ー貝の出入と貝合乃とねあ貝いづすよハおの  
 切者さうが役さうり色を也別をくやーはらけお  
 りくくくづるまね子に貝名を貝のゆきくんぬ  
 びるべー出入われまてづまきぬハえんぐさーや  
 べー

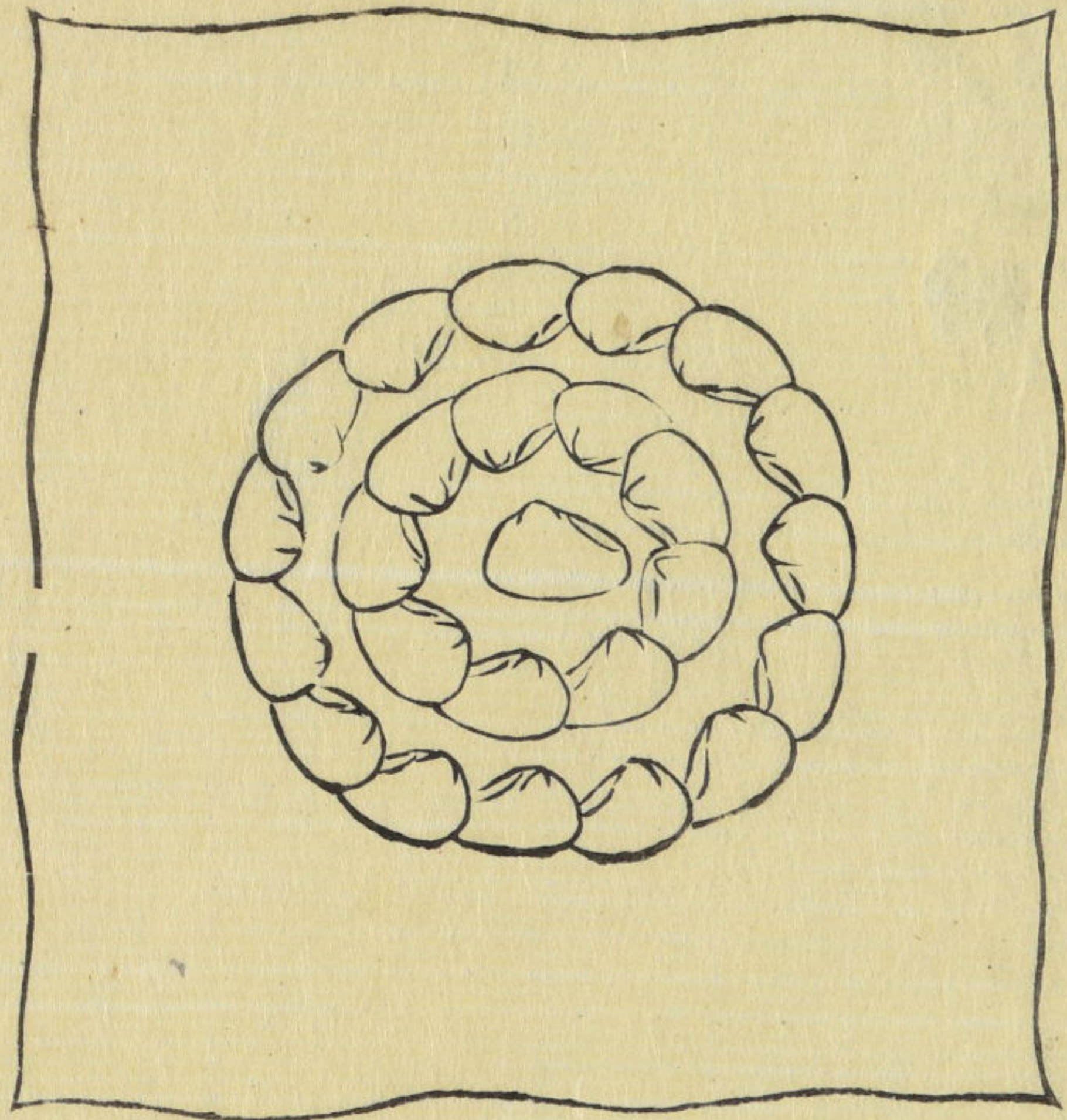
一 貝宮ぎやうにきんぐさお教おしな口くち付

るをこづ  
 貝箱の音

箱たに并な巻まくく初と衣に小こ児に結むす口くち付

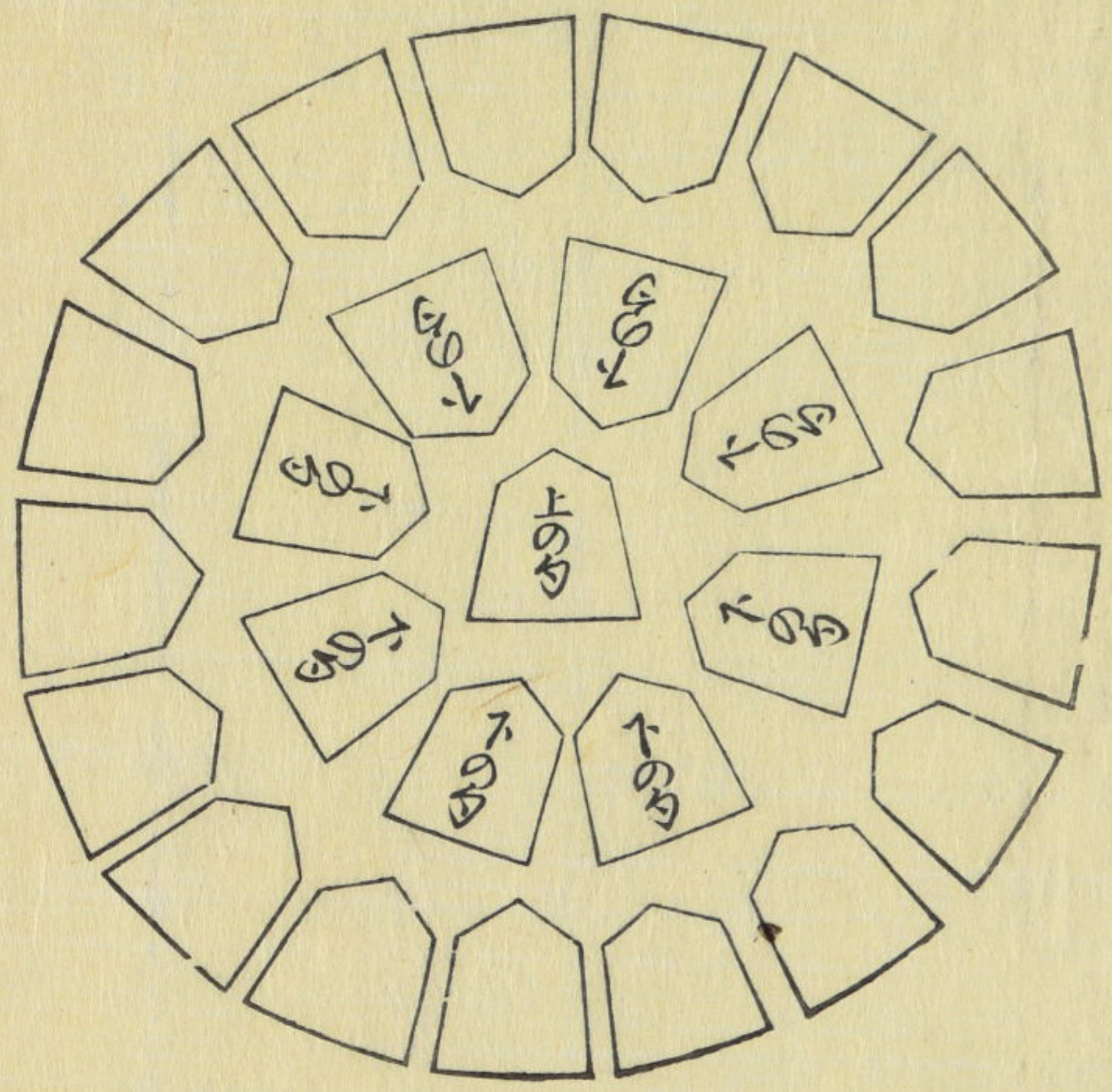


貝合之番



貝の事

- 一 俗名骨牌と云ふあやももり貝合に似たりよの貝とはあやももりなり
- 一 名進まると云ハ伊勢也なりなり出たり板室は借あり式法は碁路なり今別冊にて云ふあやももり
- 一 五葉はくやうは借あり室南よりなるものにあらず
- 一 曰くやうと云ふなりと云ふものにあらず
- 一 曰くあやももりと云ふものは借
- 一 當時百人一首よかたりと云ふ事とは源氏古今伊勢
- おかしなり何れもくもなぐらんと云ふ事
- 一 貝合の事
- 一 貝合の事
- 一 貝合の事



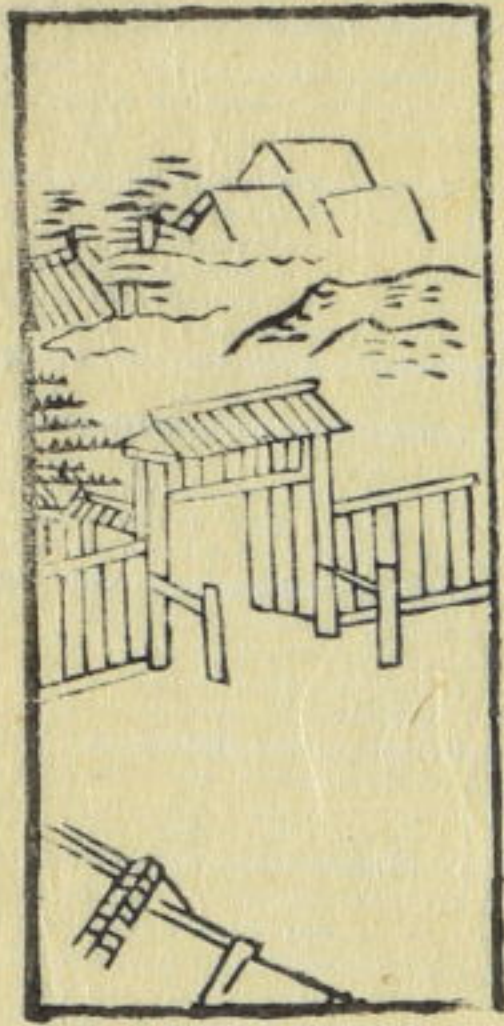
繪貝并 文字れえ度

一 五葉繪貝文字れえ代のりるり繪貝ハ繪貝のりる  
 にしと名和の繪とて付合と云のりる合せと  
 一 日文字れハ何書又繪或ハ名和又所ハ名平生れ文字  
 異る何れも文字と二文字三文字とてくはるは  
 出地とりよるよるくはるしとて又文字れ  
 一 人しとてよるくはるしとてよる  
 一 日文字れ出地とくはるしとて熱字或ハ付合とてくはる  
 一 繪貝のりるくはるよる  
 一 日まわりくはるしとてくはるよるあり  
 一 凡繪貝ハ繪のりるたあり繪名和とて知男知女  
 一 いろいろくはるしとてくはるよるあり文字れとて  
 一 いろいろくはるしとてくはるよるあり

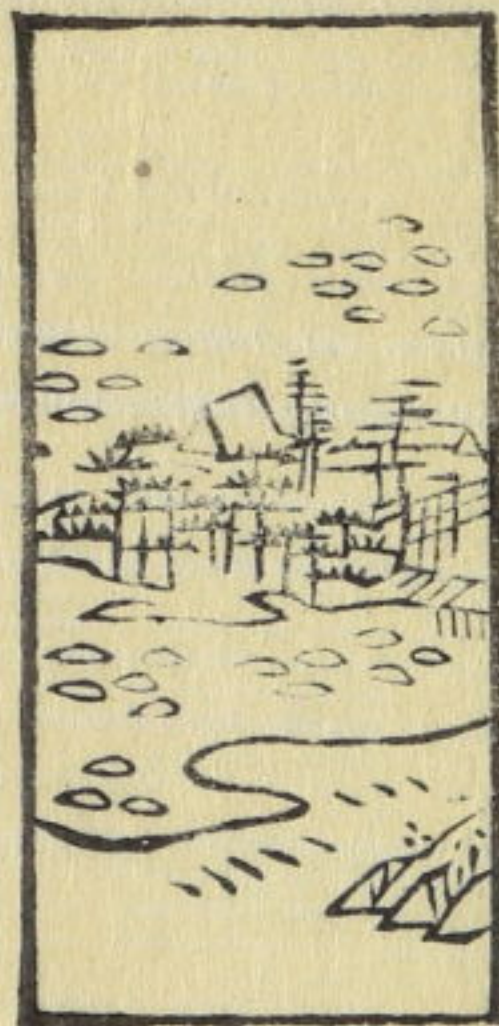


をあらふにせんぐらあり法貝の父を貝よにされば  
 法貝とをけり子細に侍り但し又まれの長みす  
 ちて武寸あつさ二かづりの板よくはまらるるがよに  
 ちかひひごころあり

繪貝 舞 又まれの島



島の島



島の池

秋風起

白雲飛

か子のあそびはけ外歌らうり又まのさうりこらふ  
 けり虫落花びとびさどけまごひありとらふとら  
 しくみゆるるわを記よとらふぞ

拾種 香の事

香式

一 先香煙ふんばあつさなりいよりとらふ  
 島よより或の時花にららるる種合の香の名を  
 とすすやま地すぐされた一香の人よとらふ  
 て香のきらら七種匂ひの味よとらふとらふ  
 はけららとらふ先匂ひ香りららるるに  
 各の香もあつさあつさあつさあつさあつさ

うに漉くうー親書の始終乃白ひかゝるゆえに  
くどめいふとふれ白ひとく吟味もふー家の香た  
らとくひゆ大新あり凡焼但の連歌乃附合の  
ありおれくの記録よりわたりかゝるべし時乃香を  
りせそく相次ぐ縁はゆきとく終へ一春うらな  
茶其の交學の此ははるのふりあふ冬は初  
書をよかんと大新このう終へ無れ香に  
乃ぶおけさ文書なとくゆんぬはま教行も  
こゆにいとも一柱二柱と終へ乃らに志は  
何と縁はとく念きう進ひゆわにうりか  
香をうりわたり終へ乃らとく縁ははのり  
まどくひ書なりともりい香に縁と不らん念ひ

とともゆきとらて終は但縁とくたきとく  
ゆき細よは縁乃興はは縁と念きうなり  
ゆり物念香はきう進ひゆわにうりか  
六十一柱の香とからせうと不終なるりゆき  
うとく十柱香小細念と終ははりまよとくす  
入は新加羅瓦圓志那香志那質とく志りて終  
香の興とくまべさ半は聞とく

香のあり人の香  
香乃作やハ本所に  
志野柳見でれおかざりとりとく  
五合著灰 曰合著灰  
十柱香七ツのはた

香炉一乃香炉  
折居連中札入

貴人香爐まじりや

香れ十枚 香三枚

既掛了 焼返し

記録紙お出出す

初より香紙束へこと名乗る

試十柱香はケ條

右のどくおとくは侍さうひありとどくおとくおの

花かきこも人毎にふゆるまにありやうと

まじりやうとありやうとありやうとありやうと

よりなり桃心あらん人へもふゆるまにありやうと

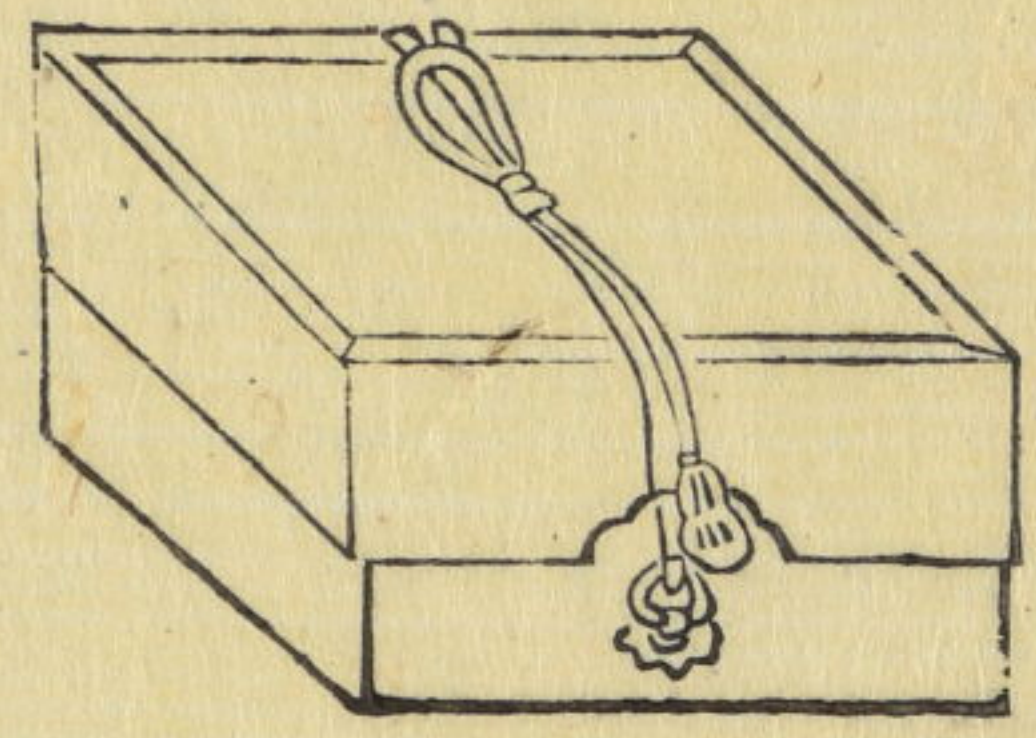
瓶の蓋

下に字の取と

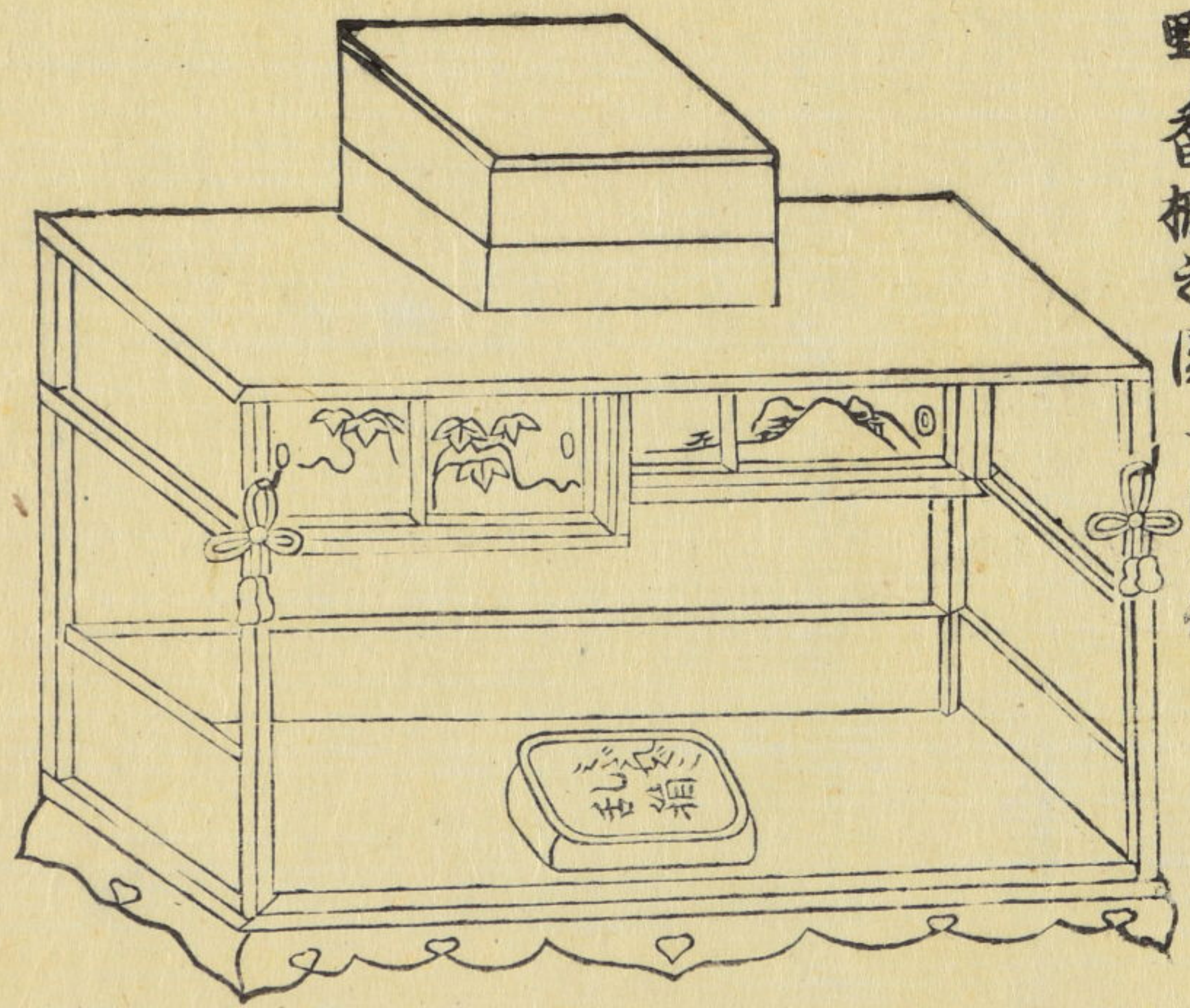
追加

かきぬ

香野香棚之圖



香箱の番寸法は



五井

十炷香初辰のりやうたのぶとくもれそむひり十二  
よわすすうひあつ支がまこバ信うびた其類  
とあもくいしん

香乃類

香四五灰

志野香柳 志にまりり

香臺飾

十炷香之記

十炷香品と香乃類

宇治山香

郭云香

香架二人

沉箱

私管に備は

折居双楯

全試十炷香記

小单香

号香

古令香

小多香

花月香

月露香

親月香

海氏香

人形香

系圖香

は外二三又六れおよわす多さゆかきと香  
の六燈品にうぶれりの大畧をさうり口傳秘  
おほしりてとま由一二と香

字法山番の畧

月	月	月	月	名系
				知ッ唐は
				香 <small>イ</small> 山 <small>イ</small> 法 <small>フ</small> 山 <small>ト</small>
				香 <small>イ</small> 山 <small>イ</small> 法 <small>フ</small> 山 <small>ト</small>
				世 <small>セ</small> 山 <small>イ</small> 法 <small>フ</small> 山 <small>ト</small>
				知 <small>チ</small> れた <small>レ</small> 山 <small>イ</small>
				志 <small>シ</small> 山 <small>イ</small> 法 <small>フ</small> 山 <small>ト</small>

小單番之畧

月	月	月	月	名系
ヤ	ウ	キ	ウ	ヤ
ウ	キ	キ	ヤ	ウ
キ	キ	ヤ	キ	キ
キ	ヤ	ウ	キ	キ
悉皆合	合点		合点	悉皆合 <small>しつぱいごう</small>
	一		二	

かく乃とれぬのりもど中く後とんくもか  
のりうらと志の人ハくく昨侍わぶ一

宇治山番さし

大櫃と二包

十包

大櫃乃試

言れ流

名系紙さしりりわり

小菊番さし

五文字

四文字

三文字

流

流

流

一乃殿

殿の点なすりりり

小菊番さし

一乃殿

つろ

かつらぬ

多名乃とれくおどさりり

郭公香あし

香たへ流す

流

名系

我香さしりりり

鶯香たし

表の流

表の流

松

竹

梅

香

香の柱

試の柱

記保入殿さしりりり

花月香さし

六粒

十二包

花

月

札遊かす際

さしりりり

古今香さし



事ありのどに物さうんと知らくたさる  
登<sup>つ</sup>なま<sup>を</sup>と貝<sup>あ</sup>合<sup>を</sup>進<sup>ま</sup>ま<sup>ら</sup>れ<sup>は</sup>後<sup>の</sup>又<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>く</sup>行<sup>い</sup>思<sup>ひ</sup>  
乃<sup>の</sup>り<sup>の</sup>も<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>う<sup>く</sup>人<sup>を</sup>と<sup>と</sup>解<sup>か</sup>ん<sup>と</sup>乃<sup>の</sup>ふ<sup>よ</sup>上<sup>の</sup>筋<sup>の</sup>り<sup>り</sup>  
あ<sup>ら</sup>う<sup>く</sup>び<sup>と</sup>夏<sup>あ</sup>乃<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>ら<sup>ら</sup>化<sup>か</sup>し<sup>や</sup>け<sup>く</sup>ど<sup>ど</sup>わ<sup>が</sup>業<sup>を</sup>も  
け<sup>く</sup>く<sup>く</sup>な<sup>く</sup>と<sup>と</sup>な<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>い</sup>ん<sup>ん</sup>



